

おどり高円寺

めぐるめぐ発展の四十年

高円寺阿波おどり四十周年記念誌



おどれ高円寺

高円寺阿波おどり四十周年記念誌

めぐるめぐ发展の四十年

カラーグラビア● PART 1

高円寺阿波おどり

目次

エッセイ

逆転の構図 ねじめ正一

2

山あり谷あり 高円寺奮闘記

10

40年のあゆみ

8

これが阿波おどりだ 阿波おどりを彩る大道具・小道具

27

高円寺阿波おどりマップ

28



夏より熱い連が来る

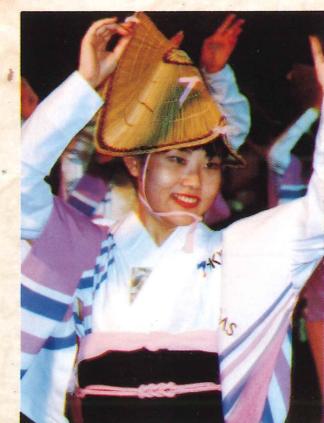
30

高円寺阿波おどり連協会所属連19連、一般参加連のご紹介

【連協会所属連】

【一般参加連】

葵 新連	30	国 分 寺 連	40	板橋区役所けやき連	45
飛 鳥 連	31	杉 の 子 連	40	K S D 豊明会連	45
い ろ は 連	31	助 六 連	40	新宿区役所つづじ連	45
江 戸 浮 連	32	す そ の 連	40	だいこん連	45
江 戸 っ 子 連	32	第三企画連	41	つくし連	46
えふあいえい連	33	新座こぶし連	41	中 村 橋 連	46
菊 水 連	33	び っ く り 連	41	な ご や か 連	46
苔 作 連	34	み た か 連	41	大 月 夜 叉 連	46
し の ぶ 連	34	大 和 連	42	騒 連 中	47
写 楽 連	35	晃 妙 連	42	希 望 連	47
志 留 波 阿 連	35	杉並区行所さざんか連	42	杉並さくら連	47
新 若 連	36	で ん わ 連	42	たつのおとし子連	47
天 犬 連	36	東 京 ガ ス 連	43	初 台 連	48
の び ゆ く 連	37	と う で ん 連	43	舞 蝶 連	48
天 水 連	37	ト ヨ タ 東 京 カ ロ ラ 連	43	い わ び つ 連	48
花 菱 連	38	花 の 木 連	43	風 舞 連	48
ひ ょ う と こ 連	38	ひ よ こ 連	44	ち ど り 連	48
み ど り 連	39	郵 便 局 連	44	に し い ば 連	48
若 駒 連	39	青 二 才 連	44	山 形 ん だ ズ 連	48
		朝 日 さ わ や か 連	44	40年を彩った仲間たち	49



海外遠征 —世界の阿波踊りへ—

50



東日本阿波おどりマップ

52



踊る阿呆に、見る阿呆

54

みんなの声

祝・40周年名刺広告

59

大会役員インタビュー 小澤淳男

67

カラーグラビア● PART 2

高円寺阿波おどり

68

昭和62年～平成8年●ポスター、中吊り広告、テレホンカード

72



編集後記

74



▲第38回（撮影／鈴村芳子）



▲第38回（撮影／庄司富作）



▼第39回（撮影／渡辺君英）



▼第39回（撮影／神崎真）



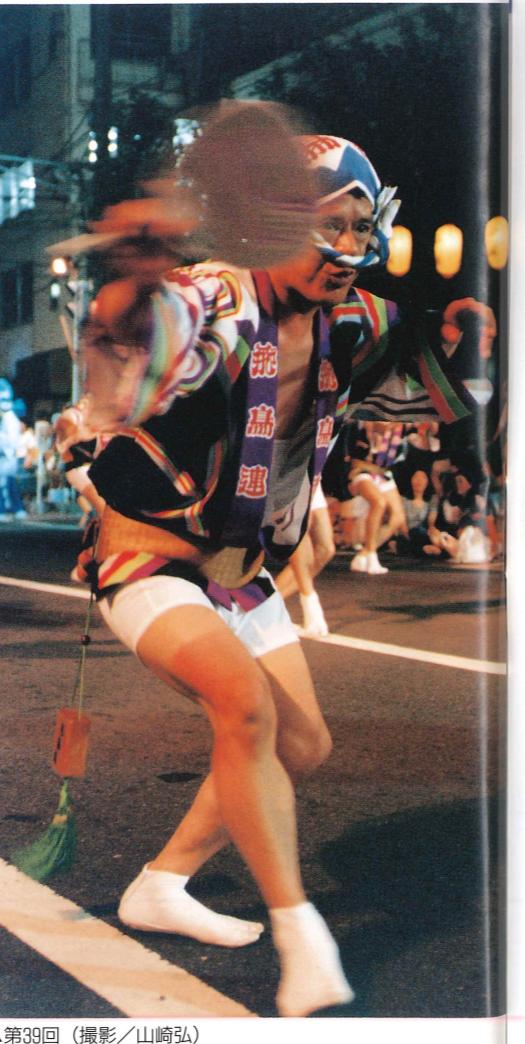
▲第38回（撮影／大平のり子）



▲第38回（撮影／石黒寛）



▲第39回（撮影／正木サト子）



A photograph of a woman in traditional Japanese festival attire, likely a matsuri participant. She is wearing a large, light-colored straw hat with a dark band and a white kimono decorated with a red stylized character and a green circular emblem. She is captured in the middle of a clapping motion with both hands. The background is dark, suggesting night, with several blurred, glowing orange and yellow lights, possibly from lanterns or other festival decorations.

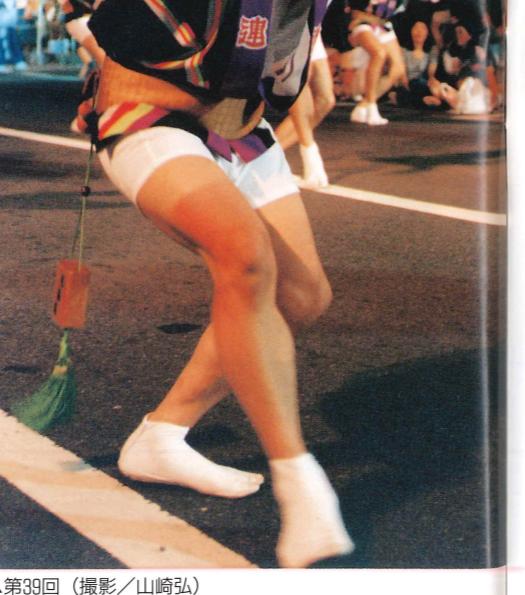
▲第38回（撮影／内藤達夫）



▲第39回（撮影／神山敏夫）



▲第39回（撮影／福岡信吉）



▲第39回（撮影／山崎弘）



▲第39回（撮影／庄司富作）



▲第38回（摄影／福鱼久子）



5



▲第38回（撮影／前田フサ子）



▲第39回（撮影／山田弥一）



▲第39回（撮影／神藤友衛）



▲第38回（撮影／神山敏夫）



▲第38回（撮影／片山良子）



▲第39回（撮影／岩田年一）



▲第38回（撮影／高橋幸一）



▲第39回（撮影／日下英夫）

中央線沿線高円寺名物の阿波踊りが始まったのは昭和三十二年である。夏枯れで売り上げの少ない八月末に、なんとかお客様を呼ぼうと考えだしたイベントである。

その高円寺阿波踊りは最初の頃は「高円寺ばか踊り」といつた。踊るときの衣装は浴衣でなくてもよかつた。シャツにジーパン、とんでもなく派手な衣装、暗黒舞踊を思わせるような不気味な衣装などを着た人たちがいきなり、客席からあらわれ出でて、自由に踊りまくつた。

そういう意味では高円寺ばか踊りは高円寺という町の宣伝効果としてはあまり意味がなかつたようだ。ところが、高円寺ばかり踊りから高円寺阿波踊りに名前が変わつてから俄然イベントとしての雰囲気が出てきた。

最初から「ばか」を強調して、高円寺という町のユニークさを出そうとするのではなくて、謙虚に本場の阿波踊りを真似る姿勢に変えたのだ。

これが高円寺阿波踊りが成功した秘訣なのだ。
本場の阿波踊りのスケールと比べたら問題にならない。踊り手の人数、警備員の数、道路の広さなどのどれをとっても本場の阿波踊りの方が上である。

だが、高円寺阿波踊りとネーミングしたところがなかなかの広告マンなのである。「高円寺ばか踊り」という名前を変えていかつたら、この高円寺のイベントも二、三年で消えていたに違いない。

それにしても高円寺阿波踊りとうねーミングは上手だ。阿波踊りをうねーミングは上手だ。阿波踊りとい

氣遣いながらも高円寺という名前は阿波踊りよりも先にもつてきて、一見、高円寺の方が阿波よりも古い感じを与えるのがポイントなのだ。

つまり、阿波が高円寺を真似たように錯覚させる。この錯覚させたところが妙味なのだ。イベントコピーとしてはスバラシイ。

形は本場の阿波踊りをけなげに真似しながらもネーミングだけは強引さがある。このけなげさと強引さのバランスがスマート。けなげに強引に進める商人の知恵がきらり光っている。その証拠に高円寺阿波踊りが二年、三年とつづくうちにそれなりの格好がついてきた。本場の阿波踊りと形の違つた高円寺風の阿波踊りになってきたからふしぎなのである。

いやはや、そうなると、大阪や九州の商店街でも高円寺阿波踊りを見習つて、自分の商店街でも阿波踊りをやろうと高円寺阿波踊りをはるばる見にきた。あっちこっちで阿波踊りをやりたくなつたが、本場の阿波踊りを見にいくのではなく、高円寺阿波踊りを見にきた。商売につなげるには阿波の皆さんには申し訳ないが、高円寺阿波踊りの方が参考になつた。

真似るといういかがわしい力を利用して、とんでもなく違うものにしてしまった高円寺の商店街の人たちのパワーがすごい。物真似タレントのコロッケが歌手千昌夫の物真似をして、千昌夫以上の人気を博したこと高円寺はコロッケよりも三〇年以上前から知っていたのだ。本物の真似をしておきながら本物をおびやかす存在になりたいと昔から狙つていた。

いや、本物が偽物を参考にして、本物が偽物に励むところでもつていきたいのが高円寺阿波踊りの夢と私はにらんだ。本場の阿波の皆さんにはこれまた申し訳ないが、これが高円寺阿波踊りの魅力だと思っている。

逆転の構図

ねじめ 正一



ねじめ・しょういち 昭和23年、東京・高円寺生まれ。詩集『ふ』で第31回H氏賞、平成元年『高円寺純情商店街』で第101回直木賞受賞。現在は、小説家、詩人、ねじめ民芸店の経営者として、テレビ・ラジオをはじめ多才に活躍。著書に『本日開店』『かなしい恋愛』『ご近所パラダイス』他多数。



高円寺の阿波踊り

商店街の振興策として始められたものである。しかし年を追うごとに規模は拡大して日本全国へ、そして海外に赴くまでになった。その意義も利益追求から社会貢献へと深まりつつある。

こうした興隆は、試行錯誤



山あり 高円寺あり

高円寺奮闘記

四十年のあゆみ



を重ねながら歩んだ歳月の上に花開いたものだ。昭和三十二年の夏に始まった歴史は、決して平坦な道のりをたどつたわけではない。存亡の危機や本場徳島との出会い、そして高円寺をとりまく環境変化など、数々の資料が四十年の変貌を語っている。

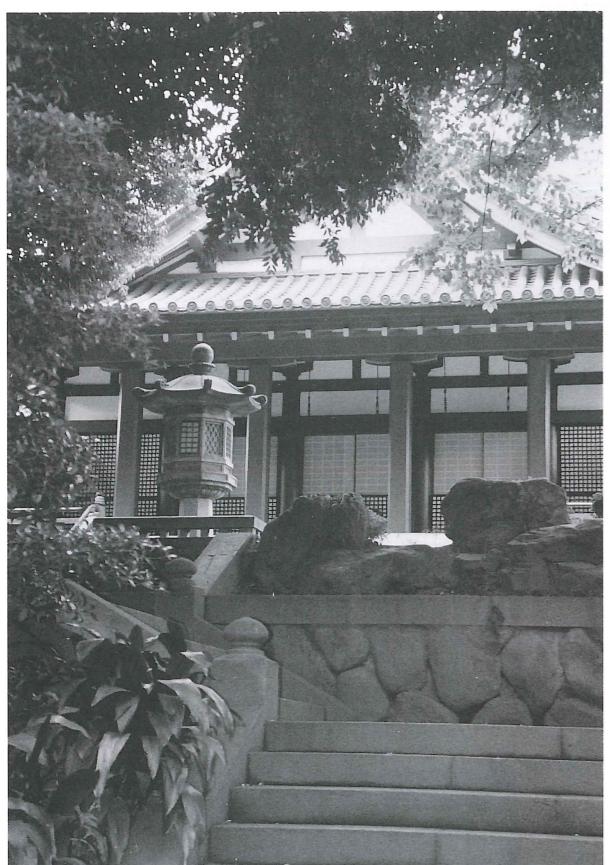
「なにか威勢のいいことをやろうじゃないか」 商店会の青年が集まり、そして……

きっかけは青年部の誕生から

昭和三十二年八月十三日。暑い夏の一日の仕事を終えた若者たちが、高円寺南口の魚屋「大晴」茂木氏宅二階宴会場に集まつた。この夜、現在の高円寺パル商店街振興組合、当時の高南商盛会に青年部が誕生しようとしていたのである。

軒ほどあつた地元商店街は、店主世代のつながりはあるつても、その次代を担う若者たちの連携はまだなかつた。「これからは若い人の時代だ。お互いの顔を知つて相互理解を深めようじゃないか」という役員の呼びかけで、青年部の発足式が行われたのであつた。

その夜、「ポンポン俱楽部」と名づけられた青年部誕生の記念行事として、何か新しい行事をやろうということになり、活発な議論がかわされた。中央線で隣の駅に当たる阿佐ヶ谷では、七夕まつりがすでに商店街の季節行事として発足していた。この種のイベントがまだ少なかつた当時の東京で大人気を博し、商店街に大きな売り上げをもたらす呼び物でもありました。何かそれに対抗できるものを、生まれたばかりの青年部は意氣込んでいたのである。



第1回目の時に集合した長仙寺。宝永元年（1704）創立の古い歴史ある寺で、現在の高円寺パル商店街に隣接している。今でも夏が近づくと、境内を借りて練習する連もある

番乗り気になつた。昨年徳島で阿波踊りを見ているのである。

若者たちも考えた。東京で徳島の阿波踊りをやる。斬新な意見であるし、うまくいけば七夕祭りのように名物になるかもしれない……。「阿佐ヶ谷が北国の名物なら高円寺は南国ムードで行こう」「よし、鳴門の渦でお客を高円寺に引き込もうじゃないか——」と意見がまとまつた。日には冰川神社のお祭りに合わせて二十七、二十八日。こうして、あとはすんなり決まっていき、散会となつた。夜風に吹かれながら、ひとつの目的が定まつた新生青年部の若者たちの心は期待と不安に満ちていた。

「阿波踊りはどうだろう？ 道を練り歩けるからいいんじゃないかな？」

このアイデアに、役員の茂木氏が一

民踊の先生に教わる

「なんだ、結局だれも阿波踊りなんか

知らないのか」

名称を「高円寺ばか踊り」と決めて準備段階に入り、いざ練習、と集まつた青年部のメンバーは苦笑した。「何とかな踊りをやる。斬新な意見であるし、うまくいけば七夕祭りのように名物になるかもしれない……。「阿佐ヶ谷が北国の名物なら高円寺は南国ムードで行こう」「よし、鳴門の渦でお客を高円寺に引き込もうじゃないか——」と意見がまとまつた。日には冰川神社のお祭りに合わせて二十七、二十八日。こうして、あとはすんなり決まっていき、散会となつた。夜風に吹かれながら、ひとつの目的が定まつた新生青年部の若者たちの心は期待と不安に満ちていた。

「阿波踊りはどうだろう？ 道を練り歩けるからいいんじゃないかな？」

このアイデアに、役員の茂木氏が一

民踊の先生に教わる

「なんだ、結局だれも阿波踊りなんか

知らないのか」

名称を「高円寺ばか踊り」と決めて準備段階に入り、いざ練習、と集まつた青年部

高円寺駅の踏み切りから桃園川の宝橋まで約二五〇メートルを踊り抜いた。

「何でこんなことをやるんだろうか。恥ずかしいやらバカバしいやらで、一刻も早く終わらうと、踊るというより走り抜けましたね」

これは当時踊った小沢淳男氏の回想である。

本番のおはやはチンドン屋に頼み、演奏されたのは「佐渡おけさ」のリズム。

これは当時踊った小沢淳男氏の回想である。



の熱心な宣伝活動が始まった。

横断幕を張り、女の子を乗せた宣伝カーを走らせたり、風船をつけた自転車隊がデモンストレーションに回る。積極的な「ばか踊り宣伝隊」の活動が功を奏し、

第二回（昭和二十四年）の観客は約二万人にのぼった。

踊りの指導の面では、師匠が日本舞踊家の西崎まゆみ氏に変わり、踊り方もまた変わっていた。男性は鳴子を、女性は大きな渋うちわを手に持ち、前回よりも細かくなつた振り付けに苦労しながらの練習であった。

おはやは、三味線を弾く人を乗せた屋台を引っ張って進む豪華なものになる。屋台のかつぎ手と踊り手は学生のアルバイトを募り、同時に歌のバイトも集めてこの日のために歌の「高円寺音頭」を歌わせようとした。が、一夜づけの練習では使い物にならず、青年部のメンバーがふたりで歌うはめに。

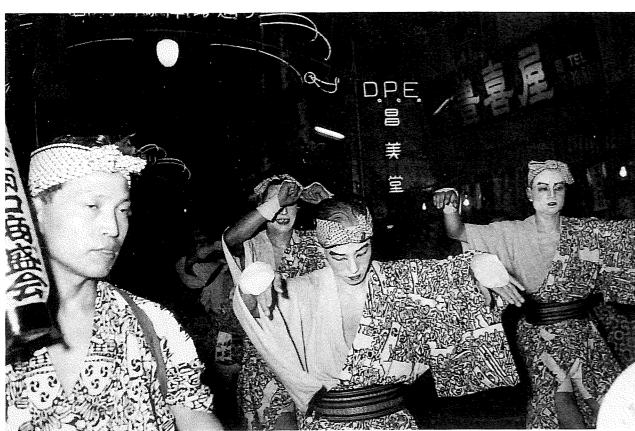
観客の動員に合わせて、内容を少しでも面白くしようとの一心であつたのだろう。とりあえず、絶体絶命の存続の危機は脱したのである。

「これで阿波踊りを続けられる」青年部の存続賛成派は、ほと胸をなでおろした。

留置場入りは覚悟で

昭和三十五年、皇太子御成婚のニュー

スに国民が沸き返った。同じ年に新道路交通法が施行され、第四回を迎えると、いう高南商盛会の活動に、思わず波紋を呼ぶことになった。



男たちの化粧はこの第2回目の時まで続いた

知らぬが仮で、当時はみなこれが阿波踊り「のよなもの」と信じて踊ったのである。

化粧をしているから誰だかわからないだろう、いやそうあつてほしい、と願いながら踊っていると観客の中から「あつ、ながら踊つて！」と黄色い声がとぶ。「○○ちゃんがいる！」と自分の店の前へ来ると、気恥ずかしさからよく走り抜ける。下り坂のコースという条件もあって、現在なら二十分ほどかかるところが、その時はものの四、五分で終わつてしまつた。恥ずかしくはあるし自信はないし、体全体をすくめながら下を向いて踊つていた彼らの姿が目に浮かぶようである。

この時ひとりだけ化粧を断り、毅然と踊っていた青年がいた。平成八年の今年まで四十年間、毎年欠かさず高円寺阿波踊りに参加している森田昇栄氏である。

「今に阿佐ヶ谷の七夕を抜く、という予感があつたから」

今日の隆盛を予想していた、というようり信じていた者が、ひとりだけはいたのである。

昭和32年、第1回目の阿波踊り。これは長仙寺での休憩タイム。青年たちに笑顔を見せる余裕はなかったようだ

歌舞伎調の踊り

二回目の夏が来ようとしていた。去年より少し早く練習に取り組んだ青年たちは、今年はしゃもじを握らされていた。

高円寺駅の改札口の前で体操のトレーニングをし、歌舞伎の「六方を踏む」練習も積みされた。恥ずかしくても精いっぱいやるしかない。

指導される踊りは、去年より落ち着いたスローテンポの踊りになつていった。

不器用な青年にとっては、かえつてやりにくくなつたようである。

本番のおはやはリヤカーに積み込んだけて、まだテープレコードが使われ、この年初めて高円寺阿波踊りが新聞に報道された。当時「なべ底不況」の流行語が世相を表している世の中であったが、東京新聞に「ナベ底ふつとばすバカ踊り」という九行ほどの短い記事が載った。青年部のメンバーは記事を切り抜いて大切に保存した。

「もうよそくよ！ 本当にバカみたい」という声がとぶ一方、「いや、続けてみようよ。続けなきやわかんないよ」と言ふ張る者もいて、意見はまつぶたつに分かれた。最後には無記名投票をして、中止か存続かを決定することになった。

年部は、会合のたびに議論百出した。

「あの時、逆の結果だつたら、今日のメンバーは振り返る。」

存続は決まつたものの、今年の観客数

二回目の時には五千に増えていた。しかしほとんどが地元の者ばかり。これでは売り上げ増をねらう商店街の行事として

バカ踊りなんかやめてしまえ

初回に約一千名を数えた観客数は、第

の役城石昇氏は連絡係、差し入れは誰、と役割分担も決まつた。

こうして決死の覚悟で臨んだ大会であつたが、直前になつてとうとう一日だけの許可が下りたのである。知り合いの都議を通じて本府の交通部長から地元警察の許可が下りたのである。知り合いの都議を通じて本府の交通部長から地元警察に話が行つたという説もあれば、警察が地域住民に対して行つたアンケートの結果が、高円寺阿波踊りに好意的だったからという説もある。

この年まではこうして、内に存続賛成・反対の二派をかかえ、外に道路交通法の脅威に憂ひ、まことに不安定な暗中模索の時代が続いたのである。だが、それも未来のためのステップに過ぎなかつた。徳島県人会の阿波踊り連「木場連」との出会いによつて、高円寺阿波踊りは大きく開花するのである。

こと、強行策をとることになつた。もしもの場合、留置場行きは責任者の小沢氏の役城石昇氏は連絡係、差し入れは誰、と役割分担も決まつた。

こうして決死の覚悟で臨んだ大会であつたが、直前になつてとうとう一日だけの許可が下りたのである。知り合いの都議を通じて本府の交通部長から地元警察に話が行つたという説もあれば、警察が地域住民に対して行つたアンケートの結果が、高円寺阿波踊りに好意的だったからという説もある。

この年まではこうして、内に存続賛成・反対の二派をかかえ、外に道路交通法の脅威に憂ひ、まことに不安定な暗中模索の時代が続いたのである。だが、それも未来のためのステップに過ぎなかつた。徳島県人会の阿波踊り連「木場連」との出会いによつて、高円寺阿波踊りは大きく開花するのである。

「所詮はまがいもの」とは、ずいぶん厳しい言い方のようですが、「教えて教えられるものじやないよ、これは――」というのが徳島の人たちの本音だったかも知れません」（『踊れ高円寺』高円寺阿波踊り新聞／昭和五十五年発行より抜粋）

とあるように、決してたやすいことではなかつた。それでも懸命に協力者を探して歩くうち、徳島新聞社の東京支社で記者をしていた谷田匡氏に出会つたのである。

のちに東京支社長になつた若き谷田匡氏は話を聞き、写真を見て「これはいける」とこの変わった尋ね人の記事を新聞



昭和33年、第2回。昔の高南通り、今の高円寺パル商店街を踊り抜ける一行。背景に写る「鹽瀬」は今も現存する老舗である

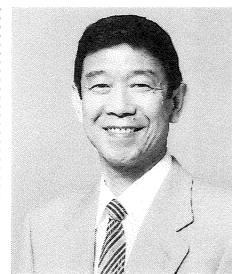
いつまでもばか踊りじやだめだ。ようやく

あこがれの徳島

このころ、高円寺独自の「ばか踊り」をずっと続けていいのだろうか、と現状を疑問視する声が上がり始めた。こうした機運をとらえて森田氏は「本場・徳島の阿波踊りを学ぼうじゃないか」と提案。青年幹部は徳島県人会や徳島県東

四十周年に 寄せて

東京都知事 青島幸男



四十周年に

暑さも吹き飛ばす元気な掛け声が東京のまちにこだまする夏の風物詩、高円寺阿波踊りが四十周年を迎えたことを、心からお慶び申し上げます。

この四十年の間に、高円寺阿波踊りは、地元はもとより多くの都民の皆さんが待ち望む行事として発展してきました。そくだいました。

地元の皆さんこののような活躍を見るにつけ、東京にもいろいろな故郷があり、そこに愛着を持つ方がそれぞれ頑張つてくださいました。

私は日本橋生まれですが、夏と言えば、うだる暑さの中でアイスキャンディを頬張る子供たち、打ち水がされた路地の縁台に涼む大人たち、夜空に華ひらいた花火など、なつかしい思い



上／昭和37年、第6回の時は報道陣がつめかけた。当時のスピードグラフィス、スピグラと呼ばれたカメラを構えている

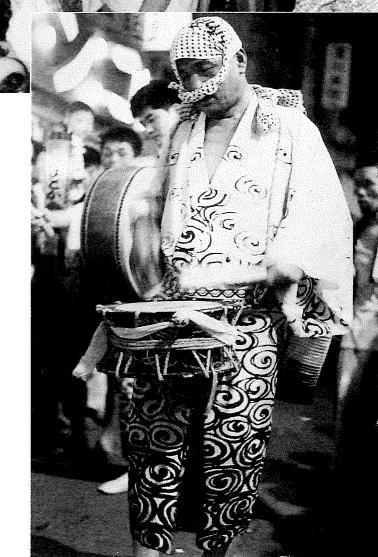
中／NHK四国向け放送の収録風景。霞ヶ関のNHKスタジオにて（昭和35年）

右下／昭和36年、大会前に取材の回覧状が会員に回された

左下／昭和36年、第5回。TBSラジオのインタビューに応える黒田事業部長



踊り手65名、観客4万人を数えた昭和35年、第4回目。まだ警察の道路使用に対する許可方針は厳しかった



高円寺阿波踊りの恩人、鴨川長二氏 第5回目に木場連として出場した時のもの

鬼の師匠

江東区の深川、木場は当時、「東京の徳島」といわれたほど、徳島県の出身者が多かった地域である。徳島県人会に所属する人々で結成された「木場連」という阿波踊りの連もあった。昭和三十七年に入つて、青年部のメンバーはこの「木場連」の連長であつた鴨川長二氏に阿波踊りの手ほどきをお願いした。

鴨川氏は青年部の依頼に快く応じ、手の空いている木場連のメンバーたちを呼び寄せて、指導してくれることになった。長二氏の子息、鴨川實豊氏は語る。

ばか踊りから阿波踊りへ

観客の方は第四回に四万人を集め、第五回には倍の八万人を数えた。初回三十八人だった踊り手は五回目で約九十人に増えていた。高円寺の阿波踊りの参加者数は前年と同じ年はあっても、決して減ることなく今まで至つている。

昭和三十五年に初めてテレビ放映された高円寺阿波踊りだが、翌三十六年もTBSラジオや、NHK四国向け放送に出演した。これは木場連の誘いで、霞ヶ関ちなみにこの年は企業（野村証券）の初参加があった年でもある。踊りのコースが延長されたり、商盛会でそろいの波千鳥のゆかたを作つたりと、徐々に拡大・充実の様相を見せ始めたころであったが、ひとつのエポックとなつたのが昭和三十

八年の第七回目である。それまでの「高円寺ばか踊り」から正式に「高円寺阿波踊り」へと名称を変更した。

木場連に教わり始めて三年目、たどたどしくもようやく本物志向へと脱皮したというところであろうか。前年、踊りの先頭に立つてもらった木場連の連員と、商盛会の連とで初めて一連という形の参加となつた。親鳥に見守られながら、巣を飛び立とうとしている若鳥の姿を思い起させる。

だが、大会第一日目にある八月二十八日に猛烈な夕立があり、桃園川が氾濫して出水した。この日のために厳しい練習を重ねてきた連員の中には、空を仰ぎ泣いて悔しがつた者もいたが、二日目の踊りは無念にも中止となつた。

これまで四十回にわたり続けてこられた地元の皆さんたゆまぬ努力と熱意に改めて敬意を表しますとともに、今後ますますのご発展を心からお祈りいたします。

日中の猛暑がまだ残る高円寺のまち中を、色とりどりの浴衣を身にまとつて踊る多くの老若男女の姿を見るとき、私たちは、永く記憶の中に仕舞い込んできた昔を思い出し、なつかしさを誘われる気がします。

高円寺阿波踊りのような行事が、とかく忘れがちな地域の交流や連帯の大切さを思い起こさせてくれます。私が目指していく生活都市東京も、このような地域の連帯があつてこそ、着実に築かれていくものと確信しています。

これまで四十回にわたり続けてこられた地元の皆さんたゆまぬ努力と熱意に改めて敬意を表しますとともに、今後ますますのご発展を心からお祈りいたします。

「父は無骨な人間でした。阿波踊りのことになると夢中になる人でした。どんな時間だろうと、これから寝ようとしない時であつても、高円寺の森田さんから電話があるとすぐに飛んでいった。それくらい熱心だつたし、好きでもありますね」

しかし踊りに関しては厳しい師匠でもあった。まずはひとりずつ今までの踊りをやって見せると言われて、青年部のメンバーが実際に踊つてみると、あきれた顔で「全然なつちやおらん」とひと言。ところが、それまで高円寺で一番評判の良かつた神藤信一氏は「それでも、君のが一番近い。何とかさまになつていてくれた功績が大きいといわれている。そして、徳島新聞社を通じて徳島県出身で杉並区馬橋在住の作家・三田華子氏や、木場の鴨川長二氏（いすれも故人）を紹介されたのであつた。

鴨川氏はおはやしも教えてくれたが、一生懸命のあまり時にはバチで弟子の手を叩くこともあつた。こうしたしぐさに耐え、十人ほどの有志が仕事を終えてから毎晩木場通いをして踊りの技を磨いたのであつた。

この前年にあたる昭和三十六年、青年部は木場連の連員に指導を受けている。本場の指導を受けたのはこれが初めてであつた。この年の本番では「ばか踊り」に木場連の連員十九名が初参加して踊りの先頭に立ち、衣装も木場連から借りて本格的な阿波踊りへの第一歩を走るとしている。しかし急速に阿波踊りのテクニックが向上していったのは、何といつても鴨川氏に厳しく仕込まれてからのことである。

高円寺阿波踊りの魂を揺さぶつた

これが真の阿波踊りか

昭和三十九年、東京オリンピック開催。

東海道新幹線が開通し、大きな経済効果を及ぼしたこの年、高円寺南口の商店会以外で初めて「新高円寺通り商店会」が

正式に大会に参加した。

二十六年度の準備中に北口の銀座商店会から参加申し込みがあつたが、踏み切りや道路の問題など諸般の事情により実現していなかつたため、ずっと商店会の単独主催になつていていた。だが、この時から商店会だけの行事

としてではなく、高円寺駅周辺全体に発展していく道を歩み始めるのである。

同じころ、阿波踊りにかけては人一倍熱心に研究する森田氏は、眞の阿波踊りをみんなに広めるにはどうしたらいいかを考えあぐねていた。



森田氏が撮影してきた当時の徳島（昭和39年）。子供の踊りですら「さすが本場」と喰らせるものが現れていた。

木場連の鴨川連長に教わって数年、何とか阿波踊りらしくなってきた。が、それを伝える方法はないだろうか……。

高円寺もこれでなくちゃいけないな」と感じた森田氏は、夜の演舞場で夢になつて阿波踊りの八ミニ撮影を始めた。腕には徳島新聞社が用意してくれた腕章を巻いていたので、どの会場へもフリーで入ることができた。このフィルムを持って帰れば、高円寺のみんなに本場の踊りを見せ得る。高円寺はもつともっと良くなる。

帰京してすぐに、映写会が開かれた。画面に映る阿波踊りを見て、みな少なくらズショックを受けたという。これが本場の阿波踊りなのか……。

今までのは何だったんだ」「もう恥ずかしくて踊れやしない」日々にそんな意



子供連は昭和35年に登場したもの

見が出る。映写会は何度も何度も、それこそ「画面に雨が降るくらい」行われた。ともかく「これこそ阿波踊りだ」とみんなの目が覚めたのである。

翌年は皆で徳島へ観察に行けるよう積み立て貯金が始められた。そして昭和四十年には「阿波踊り留学」と称して、有志十二人が徳島へ旅立った。

独立連が生まれる

この昭和四十年の第九回には、踊り手とおはやし合わせて五百名が参加。

観客は一日に十二万五千人と集計された。踊りのコースは青梅街道までの八百メートルへ大幅に延長された。

そして迎えた節目の十周年。ビートルズが来日して巷に熱狂的ファンがあふれたこの年、高円寺阿波踊りには参加者八百名、観客二十八万人。付近の八つの町会の理解と協力を得て、盛大に幕開けした。北口銀座商店会からも有志十三名が踊りに初参加した。

いしだあゆみらタレントも加わって、華やかに行われた第十回大会は、意外なハプニングにも見舞われた。

当時はNETテレビ（現テレビ朝日）の「アフタヌーン・ショー」という生番組の中継があり、六本木のテレビ局玄関先で踊り浮かれていた八十五名の連員たちは、撮影を終えてすぐ「商店街で火事だ」の知らせにびっくり仰天。急ぎ帰つてみると、町なかに消防車がずらりと並んで大騒ぎしている。

南口の商店六軒が焼失したほどの大



昭和41年の10周年大会。観客12万5千人を動員し、華やかに繰り広げられた

火だつた。出演者の中で被害に遭つた家はなかつたものの、先ほどまでの浮かれ気分はどこへやら、みんなそこそと帰宅したのであった。

八月の末、高円寺選抜隊十一名はTBSテレビで徳島阿波踊りのトップスター、小野正巳氏と共演した。このとき小野氏は高円寺の森田氏に「来年、今の峰須賀連から独立して日本一の連を作るんだ」と話したという。そこで森田氏も冗談まじりに「私も東京中の踊り好きの人を集め、東京一の連を作ります」と答えたのである。

冗談のつもりが、いつの間にか現実になつていて。翌年高円寺には森田連長率いる初の独立連「葵新連」が誕生する。独立連とは高円寺独自の言い方で、商店会や企業のバックアップのない、真に踊り好きな者が集まって作った連を指す。経費のすべてを連員が負担しなければならないが、この連は「葵新連」と名づけられることになりました。

これも、事業に携わってきた歴代会長さんをはじめ、役員の方々

「すぎなみふるさとまつり」や「産業フェア」などへの参加や、方々のご理解とご協力の賜と深く敬意を表します。

杉並区長 本橋保正

杉並区の事業でも、いろいろご協力いただいております。
交流友好都市であります群馬県吾妻町、北海道風連町、オース



四十周年おめでとうございます

高円寺阿波踊りが、本年、四十周年の記念の年を迎えることになりましたことを、心からお喜び申し上げます。
昭和三十二年に、商店振興と地域住民との交流を目指して始まつた高円寺阿波踊りが、今では夏の風物詩として、杉並区のイベントの枠を超え、全国的に評価され、毎年、百万人もの見物客を集めるまでに成長いたしました。

これも、事業に携わってきた歴代会長さんをはじめ、役員の方々

「すぎなみふるさとまつり」や「産業フェア」などへの参加や、方々のご理解とご協力の賜と深く敬意を表します。

杉並区の事業でも、いろいろご協力いただいております。
交流友好都市であります群馬県吾妻町、北海道風連町、オース

らないので、独立連の結成は非常に勇氣のいることなのである。

ふたりの大恩人

このころは稽古にしろ本番にしろ、本当に熱が入つてたと語るのは、現在、東京阿波踊り振興会の副会長を務める塚本忠吉氏である。

「昇つていく最中でしたね」

練習に明け暮れ、毎晩の帰宅が十一時におよぶ者もいた。阿波踊りと聞けば、どこへでも飛んでいった。

昭和四十二年、中央線が高架線となつて踏み切りがなくなつた。北口銀座商店会が正式に参加し、踊りの路線も北口へと延びる。高円寺阿波踊りは文字通り、この年の本番では、独立連「葵新連」の誕生を祝つて、はるばる徳島から小野連長率いる「葵連」十五名が友情出演した。初めて見る本場の踊りは大人気を博し、群衆から喝采がわき起つた。

「葵新連」と同時に「天狗連」も誕生した。以降、本格的な技術を目指す同好会が、高円寺で現役の踊りにじかに触ることのできた最初の機会である。

以後、小野氏は毎年のように高円寺へ来て、その名人踊りを披露した。いわば成長期の高円寺における、技術向上のさらなる起爆剣の役割を果たした。指導のリーダーを務めた小野氏は、昭和三十七年に初めて徳島の阿波踊りを教えた鴨川氏と並んで、高円寺阿波踊りの「二大恩人」と呼ぶのにふさわしい人物と言えるだろう。

徳島へ行ったことのない者が、高円寺で現役の踊りにじかに触ることのできた最初の機会である。

昭和四十二年、中央線が高架線となつて踏み切りがなくなつた。北口銀座商店会が正式に参加し、踊りの路線も北口へと延びる。高円寺阿波踊りは文字通り、この年の本番では、独立連「葵新連」の誕生を祝つて、はるばる徳島から小野連長率いる「葵連」十五名が友情出演した。初めて見る本場の踊りは大人気を博し、群衆から喝采がわき起つた。

「葵新連」と同時に「天狗連」も誕生した。以降、本格的な技術を目指す同好会が、高円寺で現役の踊りにじかに触ることのできた最初の機会である。



世界の阿波踊りにするのは高円寺

四十周年を迎える

更なる発展を



サンフランシスコ市庁舎前での大パレード

前夜祭が始まつたりと拡大の一途をたどる。翌年には有力な独立連がほぼ勢揃いし、高円寺を彩る主力連が技を競い合う時代に入つていく。

ビバ！ アワダンス

突然のオイルショックに見舞われた昭和四十八年。その影響は大会にも波及し、広告提灯用の電線が急に不足して大幅な値上げとなつた。が、こうした不景気下にも高円寺阿波踊りは最盛期に入つてゐるのである。翌四十九年は各地の阿波踊り

りの応援や指導、さらにテレビ出演と多忙をきわめた。忙をきわめた。昭和五十年、十五連からなる連長会が発足。

昭和五十一年、二十周年の節目を迎えた高円寺阿波踊りは、アメリカ建国二百

年祭の催し物としてサンフランシスコ、ロサンゼルス、ホノルルの三都市から招待を受けた。初の海外遠征の夢がかなつたのである。

「いろは連」を中心とする六十名が、昼夜はパレード、夜は歓迎セプションのスケジュールをこなし、地元の人や日系

人と大いに触れあつた。この年以降、インドネシアのジャカルタ、ドイツのハンブルグ、フランスはパリやニース、ハワイなど次々と海外への招待が続く。

都知事のテープカットが恒例に

昭和五十三年、商工會議所百年記念の全国郷土祭に出演。天皇陛下ご臨席のもと、徳島から百五十人、高円寺から六百人が集まつた。昼は選抜隊の見せ場、夜は全員が参加して踊る。このことは高円寺の連と徳島の連との交流が、より盛んになるきっかけとなつた。

「踊れ高円寺」と題した年刊新聞も発行された。それまで高円寺阿波踊りの歴史をまとめたものがなかつたため、これが初めての記録である。

昭和五十四年に鈴木前都知事がテープカットし、以来恒例となる。

の国際文化交流事業としての民間親善においても、オランダのユトレヒト、北京等でそれぞれの目的を果たしてきました。

当区の海外友好都市であるオーストラリアのウエーロビー市でのためと、大きな目標をもつて始めた「高円寺阿波踊り」がここに四十周年を迎えたことは、まさに関係者の献身的なご努力と不断のご労苦の賜物と深く敬意を表す次第であります。

毎年阿波踊りが行われます八月の三日間は、高円寺では百万人の観客に熱狂と感動を与え、あたかも過ぎ行く夏を惜しんでいるかのようです。

高円寺で大きく育つた阿波踊りはまさしく東京の祭りの名物行事のひとつになりました。

阿波踊りは、海外に日本を紹介するものとして、また東京都であります。

杉並区議会 第五十五代議長 井口保明

の士が集まり、独立連をつぎつぎに結成していく。これは、當時の技術向上に大いに貢献したものである。

同じ年、「葵連」による初の勉強会が開かれた。場所は神戸銀行の三階ホール。

設置された。

昭和四十五年に、

阿波踊りを年中行事とする都内各地の商店会に呼びかけ、「東京都商店街阿波踊り振興会」を作った。

情報交換や技術交換、相互の援助を目的としたものだったが、活動はあまり活発にならず、この組織は二、三年で自然消滅している。

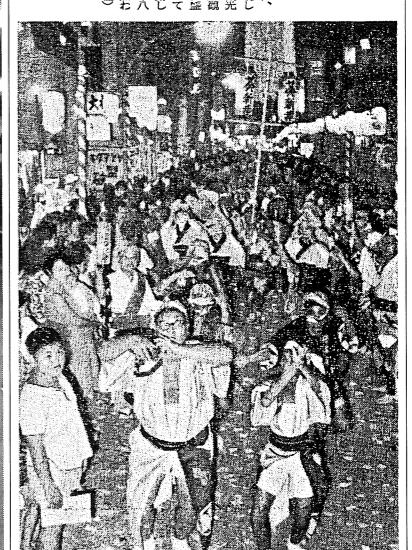
昭和四十六年に、迎えた十五周年は、宣伝広告を強化して本格的なポスターを作り、電車の車内広告や駅貼り広告も行つた。これは後の隆盛の大きな一因となつた。サンケイ新聞社の後援がついたり、



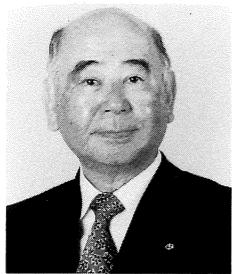
サンフランシスコ市庁舎前での大パレード



昭和44年、広くなった高南通りで踊る花菱連



昭和42年8月28日、徳島新聞より



地域社会発展のため 一層のご尽力を

東京商工会議所会頭
稻葉興作



イタリア・フィレンツェにて

ります

東京商工会議所は地域社会のため各種活動を展開しておりますが、私共は貴会のような地域おこしの運動が地域を活性する上で極めて意義あることだと思っております。こうしたことから、平成七年三月に挙行致しました東京商工会議所百二十周年の会員大会にご参加をお願いした訳ですが、貴会を中心とした東京の「阿波踊り」は会場を和ませ、大会を大いに盛り上げていただきました。

「高円寺阿波踊り」は四十年の長きにわたり、踊りつがれその輪が大きく広がり、今や地元杉並はもとより、東京の夏に欠かせない一大風物詩として定着する一方、海外においても文化交流と友好を深めるなどその活躍はめざましいものがあります。関係者の皆様のご努力に対し、深甚なる敬意を表する次第であります。

少年じゃないのに

大会を終えて息つく暇もなく、十月にはイタリア・フィレンツェで開かれたジャパン・ウイークに初参加。EC諸国的主要都市を回つて日本の郷土芸能を紹介するイベントである。「ガリレオ誕生家」前の広場で、日本を代表する伝統芸能・青森県の「ねぶた」と一緒に踊った。昼間はパレード、夜は劇場に出演。劇場が開くのが遅いヨーロッパでは、プログラムは午後十時ごろ始まり夜中の二時まで続く。日本からの参加者たちは眠い目をこすりつつ踊った。

のジャパン・ウイークに八十五名が参加。海外遠征には連協会の中から希望者を募って参加する。ジャパン・ウイークでは、洲各国を回ったが、ここが最も大規模だった。

阿波踊りの海外遠征は税関の通過が大変である。大太鼓や提灯などさまざまな道具が必要なため、大きな荷物となる。外国の税関は狭い場合が多く、大きな箱などは裏から出さなければ通れないのだがいつもなかなか許可が下りないという。提灯など見たこともない外国人に「これは何だ」と聞かれるが、説明するのもひと苦労。ようやく切り抜けたのに、荷物だけを乗せたバスが手違いでどこかへ行ってしまい、ホテルに着いていないとい

うこともあった。昭和六十三年、オーストラリア・シドニーのオペラハウスで開かれた建国三百周年祭に八十六名が参加。シドニーと東京都とは姉妹都市にあたり、副知事や都議員らとの同道となつた。

メインストリートを堂々と練り歩く駆隊。そのあとに続く踊り手たちの先頭に立つたのは第一期生の小畠肇氏であつた。小柄な人だったので、翌日地元の新聞に「日本の少年踊る」という意味の見出しが載つてしまつたというエピソードがある。

この年の第三十二回大会は徳島より姉妹連の平和連が友情出演した。

鴨川氏を偲ぶ
昭和五十八年の第二十七回大会に、木場の「天恵連」が登場した。天恵連はもとの木場連であり、二十年ぶりの出場となる。高円寺阿波踊りの恩人、同連連長鴨川長二氏が同年五月に七十五歳で他界しており、その追悼をかねたものであつた。

昭和五十九年、NHKの教育セミナー

杯が設けられ、優勝達に贈られた。昭和五十六年には「連長会」を発展解消し「高円寺阿波踊り連協会」を設立。現場サイドから高円寺阿波踊りの発展に尽力する態勢が整えられた。また、国際障害者年を記念して障害者とボランティアが連を結成して初参加し、観客の惜しみない拍手に包まれた。

A black and white photograph showing three men in dark suits and ties standing side-by-side, each holding one end of a long, thin ribbon. They appear to be performing a ceremonial ribbon-cutting. The man on the left is looking towards the camera, while the others have their heads bowed. The background is dark and indistinct.

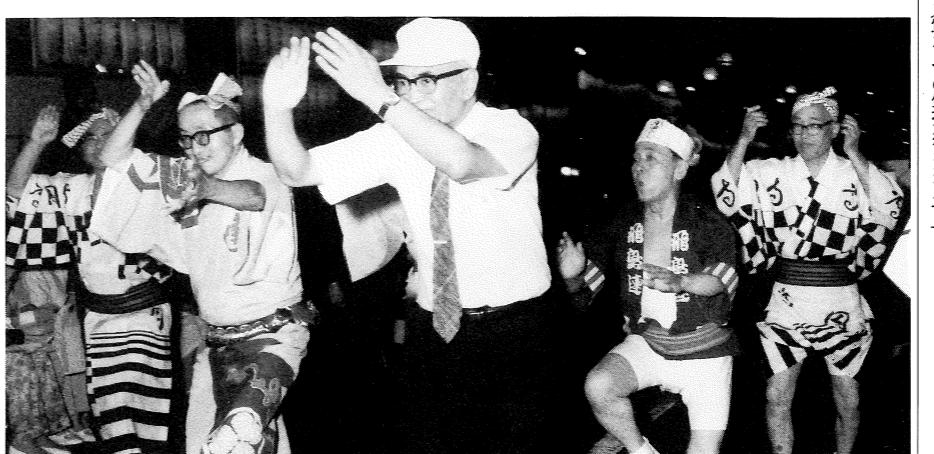
右／昭和53年から発刊された「踊れ高円寺」は、草創期から興隆期の歴史を語る貴重な資料である（曰4判）上／鈴木知事（中央）のテープカットが、昭和54年以来恒例となる



知事杯「江戸っ子連」
区長杯は「葵新連」に

盛上つた阿波踊り

知事杯「江戸っ子連」



昭和61年、第30周年大会。第一期生の「ばか踊り」

東京阿波踊り振興協会主催の「高円寺阿波踊り」が発足四十周年を迎えたことを心からお祝い申し上げます。

「高円寺阿波踊り」は四十年の長きにわたり、踊りつがれその輪が大きく広がり、今や地元杉並はもとより、東京の夏に欠かせない一大風物詩として定着する一方、海外においても文化交流と友好を深めるなどその活躍はめざましいものがあります。関係者の皆様のご努力に対し、深甚なる敬意を表する次第であります。

一層のご尽力を

東京商工会議所は地域社会のため各種活動を展開しておりますが、私共は貴会のような地域おこしの運動が地域を活性する上で極めて意義あることだと思っております。こうしたことから、平成七年三月に挙行致しました東京商工会議所百二十周年の会員大会にご参加をお願いした訳ですが、貴会を中心とした東京の「阿波踊り」は会場を和ませ、大会を大いに盛り上げて

日本は今、バブル経済の崩壊による閉塞感からの脱却に向けて、新しい経済社会の枠組みを構築するための産みの苦しみを味わっております。しかし、このような時だからこそ、人々は心の豊かさを求めるのであり、そのためにも祭りや伝統行事等が見直されるのではないか。イベントを通して企業や住民が地域を見直し、共通の地域アイデンティティを確認しあうことは二十一世紀に相応しい「ふるさと東京」に求められる最も重要な要素と言えましょう。

貴会におかれましては、激変する時代にも、四十年の伝統、蓄積されたパワーを遺憾なく發揮され、「阿波踊り」を伝統文化として次世代にも継承し、東京の地域・文化の振興に一層ご尽力を賜りますようお願い申し上げますとともに、貴会のますますのご発展を祈念いたしましてお祝いのごあいさつとさせていただきます。



The Council of the City of Willoughby
Office of the Mayor
Box 57 PO Chatswood 2087
(0X 2896 Chatswood
Telephone 777 1002

3rd April, 1996

Mr Atsuo Ozawa
Chairman of the Association to
Promote the Awa Odori Festival

Dear Mr Ozawa,

On behalf of Willoughby City, I would like to extend my congratulations and best wishes to
the Awa Odori Association on the 40th Anniversary of the Koenji Awa Odori Festival.

I am glad that the Festival has become one of Tokyo's most famous and a someone
who has experienced the delights of the Awa Odori dancers, I can certainly see why.

The Awa Odori dancers visited
establishments of the Friendly City
beautiful and colourful perform
the audience and local media

The cultural ties between our two
cities are excellent and we hope to
almost every occasion, music and
dance

The Arts have contributed great
and enhancing ties among many
Association and dancers on their
and dance

I regret that I am not able to wi
with every person involved a ve

Yours sincerely
Raymond
MAYOR

**市を代表して
お祝い申し上げます**

（ワイロビー市長オーストニア）

ユース・レイモンド

私はワイロビー市を代表しまして今回「高円寺阿波踊り」が四十周年を迎えるにあたり、ここにお祝いを申し上げます。

「高円寺阿波踊り」は東京で最も有名なフェスティバルのひとつとなつていています。そして、阿波踊りを踊ることの楽しさを一度でも体験したことのある人ならば、その理由がわからることでしょ。もちろん私にも「高円寺阿波踊り」が東京名物となつた理由がわかります。

東京阿波踊りのメンバーの方々は一九九四年に杉並区とワイロビー市の友好都市提携四周年を記念して、わがワイロビー市を訪れました。その色とりどりの美しいパフォーマンスは、まさに私たちの記念式典のハイライトであり、観客や地元のマスコミを沸き立たせました。

両都市間の文化を通じた関係は、杉並区中学生のワイロビー



上／ワイロビー市で市長も一緒に踊り出す（左から2人目）

右／このニュースは地元新聞のトップ記事として報道された



舞を繰り広げた。

シドニーはオペラハウスの前で踊り、
ワイロビー市では中心街のショッピング・モールでパレードをした。特に、地方都市で阿波踊りの「処女地」でもある
ワイロビー市では市民の関心も高かつた
ようだ。小雨のぱらつく天候にもかかわらず、演舞場となつたチャツワッドの大通りは沿道に市民の人垣ができるとい
う。リズミカルなおはやしにつられて、終盤近くでは大勢の市民がともに手を上げ、足を上げて踊り出した。

ジョン・スクワイア市長（当時）は
「こんなにぎやかなショーが当地で行われたのは初めてだ」

と目を丸くしながら絶賛し、やはり踊りの輪に参加。一行も「こんなに地元と一緒にになつたのは初めて」とその成果に満足そうだった。

被災者救援のために

そして平成七年の年が明けて間もなく、突如として阪神・淡路大震災のニュースが日本列島を揺るがした。被災者の悲惨な状況が連日マスコミによって報道され、日本各地、あるいは海外から多くのボランティアが現地へ向かった。

「被災者救援のため高円寺でもできるだけのことをしよう」と、関係者は集まつて相談した。

最初は鳴り物の音をテープで流し、駅に義援金箱を設置したらどうかという意見もあつた。が、「それなら踊ろうじゃないか。人が出ればお金も集まる」という声が出て、二月の寒空のなか連協会十九連二百人が集まり、高円寺駅前で季節はすれの阿波踊りを披露した。

連員が義援金箱を持って駅周辺の街頭

市派遣をはじめ、スポーツを通した交流、議員や職員の相互訪問など、かずかずの交流を重ねることにより、年々強まつております。そして、こういった交流のほとんど全ての場合、音楽や踊りというものは、式典や集いの中でも重要な役割を担つております。

芸術は、さまざまの国々の間に存在する障壁を取り除き、相互理解を深め、きずなを強めることに大いに寄与してまいりました。ですから私は、東京阿波踊り振興協会と踊り手の方々の、音楽と踊りという全世界的な言語を広めることへの努力に対し、賛辞を呈するとともに、感謝の意を表したいと思います。

四十周年記念式典をこの目で見ることができないのは残念ですが、全ての人々が、色とりどりの音楽の祭典の中で幸せに包まれることをお祈り申します。



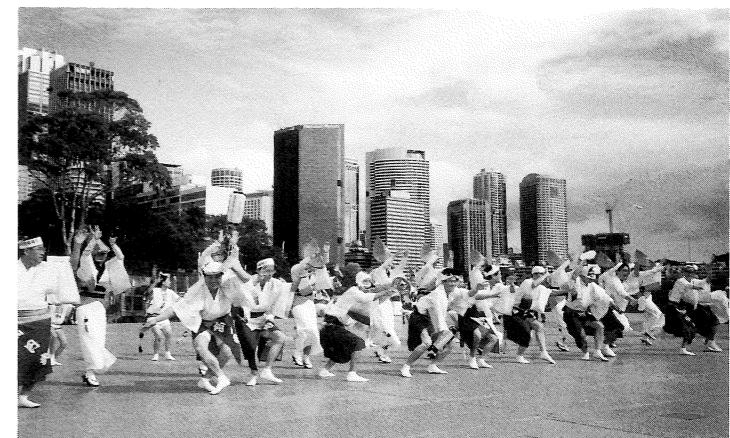
昭和62年10月、オランダ・ユトレヒトのジャパン・ウィーク



昭和63年7月、オーストラリア・シドニーの建国200年祭



平成3年4月、アメリカ・サンフランシスコの平和の祭典



平成6年5月、オーストラリア・シドニーにて

「びっくりしたが、歓迎を体で表す國民性に、胸が熱くなりました。あんなに喜んでもらえると本当にうれしい」

「謝謝」「再会」とカタ言の中国語で応じながら握手をかわしたが、最後はみな口もきけぬほど疲れ切つてしまつた。その後、天安門の人民大会堂で開かれたレスポンションに招待され、弘前の「ねぶた」や千葉の木更津神輿のメンバーと一緒に、市長からお礼の言葉を受けた。中緒に、市長からお礼の言葉を受けた。中緒に、市長からお礼の言葉を受けた。

こうして、文化交流の一翼を担う役割は果たされたのである。

九月、杉並区役所広報課によつて「ビデオすぎなみ三十号——阿波踊りに夢中」が作成された。

台風も吹き飛ばせ

平成五年・第三十七回の前日、大型で強い台風十一号が関東に上陸した。阿波踊りの実行委員会は大いに気をもみ、開催決定には三時間もかかった。結局、強風雨を警戒して一日目の二十七日は開始を三十分遅らせて決行、となつた。

実際に雨は十五分で止んだため、処置は正解だったといえよう。しかしJR地下鉄もストップしており、地元以外の連員が高円寺までたどり着くのは大変だったようだ。わずかに動いている電車やバスを乗り継いだり、せつせと徒步で来たりして集まつてきた。

野外のイベントは宿命として天候には開催前に多少の雨が降つていても、時間通り開催されてきた。それも踊り出すと止んでしまつたりと、四十年という長さのわりに天候には恵まれてきたといえる。また、この年には年末「NHK紅白歌合戦」に五十名が出演した。番組の中ほんろうざれるが、主催者側の事情は切実だ。来賓を招待しているし、警察の機動隊や消防署、警備のボランティアも準備体制に入つていて、中止になれば弁当代などの準備費用があらかた飛んでしまう。遠来の見物客の中には東京の台風を知らぬ者もいて、対応にあたる事務局の電話を朝から鳴りっぱなしだった。

雨天の中止は過去昭和三十八年の大会第一日目の一度だけである。ほかの年は開催前に多少の雨が降つていても、時間通り開催されてきた。それも踊り出すと止んでしまつたりと、四十年という長さのわりに天候には恵まれてきたといえる。また、この年には年末「NHK紅白歌合戦」に五十名が出演した。番組の中ほんろうざれるが、主催者側の事情は切実だ。来賓を招待しているし、警察の機動隊や消防署、警備のボランティアも準備体制に入つていて、中止になれば弁当代などの準備費用があらかた飛んでしまう。遠来の見物客の中には東京の台風を知らぬ者もいて、対応にあたる事務局の電話を朝から鳴りっぱなしだった。

暮れの忙しい二十九、三十、三十一日と三百間のリハーサルを通して、テレビリハーサルは待ち時間も多い。メンバーは時間のやりくりに苦労したが、国民的に有名な番組への出演ということもあって「面白かった」と語っている。

こんなに賑やかなのは初めて

どの出し物として、沖縄の「ちやんただ」との共演だった。

平成六年五月、東京都とオーストラリアのニューサウスウェールズ州の友好都市提携十周年と、杉並区とワイロビー市の友好都市提携四周年を記念して、東京阿波踊り振興協会八十八名が現地で乱打のことをしよ」と、関係者は集まつて相談した。

平成六年五月、東京都とオーストラリアのニューサウスウェールズ州の友好都市提携十周年と、杉並区とワイロビー市の友好都市提携四周年を記念して、東京阿波踊り振興協会八十八名が現地で乱打のことをしよ」と、関係者は集まつて相談した。

最初は鳴り物の音をテープで流し、駅に義援金箱を設置したらどうかという意見もあつた。が、「それなら踊ろうじゃないか。人が出ればお金も集まる」という声が出て、二月の寒空のなか連協会十九連二百人が集まり、高円寺駅前で季節はすれの阿波踊りを披露した。

連員が義援金箱を持って駅周辺の街頭

界柔道選手権大会では、日本の「ヤワラちゃん」こと田村亮子選手が期待どおり四十八キロ級で優勝。その閉会式に高円寺阿波踊りの八十名が出演し、試合に臨んで自己の力を出し切った各選手たちをなごませた。

エピローグ

そして迎える平成八年の第四十周年記念大会は、五十年、そして百年へと続く期待をこめて今年も八月二十七、二十八日の一日間にわたって開催される予定である（二十六日に前夜祭）。連協会の十九連、一般連の四十連が参加登録を済ませており、七千人の踊り手と延べ百二十万人の観客動員が見込まれている。

わずか三十八名の踊り手と二千名の観客とでスタートした四十年前とは隔世の感がある。驚異的な発展の理由はいくつも挙げられるだろうが、常に地味な努力を継続してきた大勢の裏方たちにスポットが当たることはまれである。開催の準備にあたる者もさることながら、連の雑用をこなす者や、大会当日踊りも見ずのそれら多くの「縁の下の力持ち」が四十年という長い歴史を支えてきたことを、最後に触れておく。

三月、東京商工会議所百二十周年祭が天皇皇后両陛下ご臨席のもと、東京ドームで開催された。この時、都内で阿波踊りを年中行事としている所（板橋、豊島、杉並、世田谷）に声がかかり、四地区合同で総勢七百五十名が踊った。うち二百名が高円寺からの参加である。

この年の本番には徳島から歌舞伎連が友情出演した。高円寺阿波踊りが踊り伝説」が作られた。高円寺阿波踊りの草創期から今日に至るまでの歴史を、再現を交えながら面白く、わかりやすくまとめたものである。

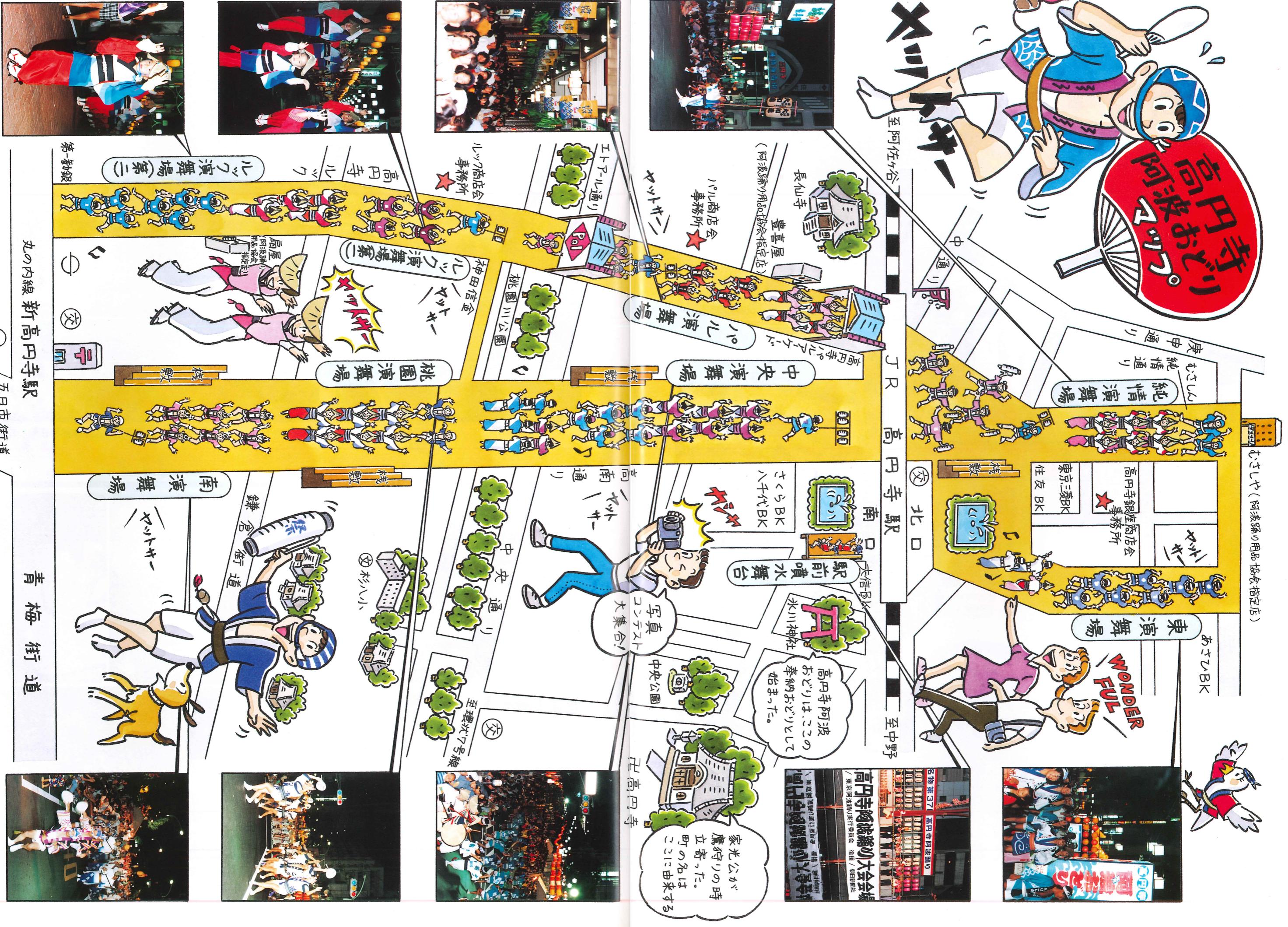
十月、千葉・幕張メッセで開かれた世

ただ楽しむだけでなく、もっと社会に貢献していく東京の阿波踊りでありたい



東京ドームで開かれた東京商工会議所120周年祭。芝のグリーンに色とりどりの衣装が映え、まるで花が咲いたようだった







①関根敏邦・谷幹男・富澤武幸 ②昭和45年10月 ③120名 ④杉並区高円寺南4-25-9 ⑤231-8396
飛鳥連は昭和四十五年、高円寺阿波踊りの発足に携わって来た高円寺パル商店街のメンバーにより創設されました。時あたかも独立連が次々と誕生している中、本物を作ろうと僅か三十人成期「飛鳥の京明日香」の枕詞「飛鳥」により、日本の琴線を大切にして、今日よりも明日に香れとの願いを込めて名付けたものです。そして「ひたむきさ」と「一生懸命」を連の心に、徳島鳴茶平の踊りに向かって、飛鳥連はそんな阿波踊りと高円寺が大好きな集まりです。

飛鳥連

あすかれん
今日よりも明日に香れ

姉妹連として、三百年の伝統に育まれて来た自由で美しい踊りと、情緒を大切にした鳴り物を目指して精進を重ねて来ました。

幼稚園児から七十過ぎまでの年齢も仕事も地域も超えて集まつて来る仲間た。時あたかも独立連が次々と誕生している中、本物を作ろうと僅か三十人成期「飛鳥の京明日香」の枕詞「飛鳥」により、日本の琴線を大切にして、今日よりも明日に香れとの願いを込めて名付けたものです。そして「ひたむきさ」と「一生懸命」を連の心に、徳島鳴茶平の踊りに向かって、飛鳥連はそんな阿波踊りと高円寺が大好きな集まりです。

いろは連

いろはれん

他連の指導にもあたる本格派

昭和四十七年結成以来、今年で二十四年目を迎えました。地元高円寺「いろは連」です。初代連長上村明男氏の阿波踊りにかける熱意と情熱が、「いろは連」を誕生させ、そして今も、熱意と情熱の阿波踊りをモットーに活動を続け

ます。

過去に二度の天覧を賜り、また数々の海外遠征を経験し、阿波踊りの連として活発に活動してきました二十数年ですが、高円寺阿波踊りが永遠であると同時に「いろは連」の熱意と情熱の阿



西の徳島、東の高円寺とはいわれま

ています。その活動のひとつが、都内及び近県で昨今急激に増えております阿波踊りの普及、指導、さらに連の育成です。

我々は「正調阿波踊り」を目指し、他連の指導普及、育成とともに勉強を続けています。本場徳島に学ぶべく、有名連の「水玉連」の指導を仰ぎ続けて正調阿



夏より熱い連が来る

REN

高円寺阿波おどり連協会所属連19連、一般参加連のご紹介

①連長名(初代~現代) ②創立年月日 ③連員数 ④連本部所在地 ⑤電話

葵新連

あいしんれん

徳島に負けぬ技量と品格

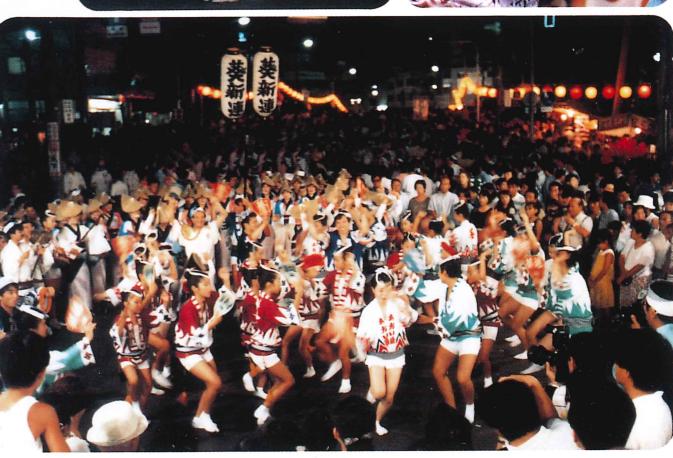
の連を作りますよ」そこで私が「東京中の踊り好きを集めて、『東京一』の連をつくりましょう」小野さんは独立して葵連を作り、東京では私たちの葵新連が誕生しました。

葵新連は東京に生まれながら、本場

可愛らしい小学生から、中学、高校は申すに及ばず一般社会人の方々まで非常に広範囲な人々が集まっています。けれど連に入ればすべて平等で、苦楽を共にわけ合います。またチームワークの良さでは定評があるほどです。

京都の東京ふるさと祭り、世界柔道選手権、徳島県の四国観光展他等多数たれ、テレビを初め各地の催物に参加、東京都の東京ふるさと祭り、世界柔道選手権、徳島県の四国観光展他等多数たる踊り愛好団体としてばかりではなく、社会的にも有意義な存在として運営されています。

德島にいささかも遜色のない技量と品格を持っています。美しい衣裳に身をかざり、格調高い舞い姿は定評のあるところです。この実力が内外に認められ、テレ비を初め各地の催物に参加、東京都の東京ふるさと祭り、世界柔道選手権、徳島県の四国観光展他等多数たる踊り愛好団体としてばかりではなく、社会的にも有意義な存在として運営されています。



①江間忠雄・藤井朝信・中倉健雄・小野寺貞光 ②昭和41年8月 ③65名
④埼玉県所沢市東新井町733 ⑤042
9・9・5・4・0・3・8

昭和四十一年に男だけの連として産声を上げ、高円寺阿波踊りに初めてハッピ姿を取り入れたのも我ら花菱連です。今年で結成三十年を迎えますが、男臭さと気っぷの良さは今も変わらぬ伝統で、「男踊りの花菱」と歌われています。気合いの入ったおはやし、粋でいなせな女提灯、今も変わらぬハッピ踊り、それにお色気あふれる女踊りが、花を添えています。目立ちたがり屋が多い

若駒連

燃え尽きる若き踊り手たち
わかこまろん

会計の塩沢を加えて二名で運営しています。
初期の頃は、おはやしから踊りまで、すべてが小学生の子供達で編成され、子供の連としてはまとまっていて、可愛らしさと元気さが売りものでした。

昭和四十九年八月、銀座商店会の命により、連長田中と副連長佐々倉の二人が小学生を集めスタートし、現在は

ので、衣装も踊りも大胆です。自分が主役を含い言葉に練習に励んできました。どうぞ主役の踊りをご覧ください。



①中沢 神山・飯島 ②昭和62年3月
 ③40名 ④国分寺市富士本一・3-9
 ⑤0425・72・1232

高円寺阿波踊り四十周年おめでとうございます。

国分寺連は十年前、国分寺西部地区の商店会地元有志の人たちにより結成され高円寺いろは連さんとの指導により生まれました。今年高円寺阿波踊り

助六連

すけろくれん

①竹内逸夫 ②昭和53年9月一日
 ③40名 ④大田区萩中2-8-16
 ⑤3742・2029

高円寺阿波踊り四十周年おめでとうございます。私ども助六連は大田区の梶谷商店街のイベントとして二十一年前より、江戸つ子連様のご指導ご協力をいただいて阿波踊りを開催しております。

助六連は正調阿波踊りを追求しながら、地域のみなさんと交流を深めております。



静岡県から参加

すその連

すそのれん

日本一の富士の山を背に、広がる裾野に阿呆が舞う、六十八人の集まりです。踊りは正調を基本とし、男は頬かむりをし、提灯を振り、豪快に武士の踊りを売り物とします。女は優雅に魅力ある踊りを目指し、連員の「和」を第一に、すその連独自の新しい阿波踊りの創造を模索し、調和のとれた連造りに努めています。



静岡県から参加

杉の子連

子どもが主役

に参加できることを励みに、踊りは見せる踊り、おはやしは踊らせるおはやしと、心がけ練習しています。

①高橋正治 ②昭和42年 ③約100名
 ④高円寺北2-7-13高円寺銀座商店会
 内 ⑤3377・7532

踊りも鳴り物も子どもが主役の杉の子連。事前の練習会もありますが、初めて参加する子どもたちを大歓迎して、当日飛び入りで踊りたい子どもも受け入れている連です。鳴り物を担当しているのは地元、杉並第四小学校の五、六年生。ヨチヨチ歩きのチビッコから元気な小学生まで未来の踊り名人!たちがのびのび楽しく参加しています。



十周年を迎えて



こくぶんじれん



こくぶんじれん



こくぶんじれん

国分寺連

十周年を迎えて



こくぶんじれん



こくぶんじれん

第三企画連

だいさんぎかくれん

力強さでは負けません



見る阿呆もピックリ

びつくり連

びつくりれん

静岡県から参加

高円寺純情商店街の名物売出し「びつくり連」からその名をつけた「びつくり連」数ある連の中、門戸開放飛び入り大歓迎の連は、このびつくり連だけ。上手、下手は問いません。踊りの大好きな人なら、どなたでも好きな時は、踊りを楽しむ連、楽しい踊りの連なので、阿波踊りの原点です。

①佐藤恒夫・林紀元・市川元英 ②昭和42年8月 ③約400名 ④高円寺北3-22-14 ⑤3330-0319



見る阿呆もピックリ

①久米信廣 ②平成2年1月23日
 ③30名 ④中野区野方5-2-10 第三企画ビル
 メンバー一人一人の個性を十二分に發揮しながらも、統制のとれたエネルギー溢ぎ、鮮やかなあれば踊りが特徴。また息のピッタリ合った斬新な群舞は、高円寺の他本場徳島でも毎年注目の的となっており、見る人を飽きさせません。これからもますます頑張る私たち第三企画連の踊りに、どうぞ熱い期待と末永い応援をよろしくお願い致します。

①福島衛(初代)・矢口實(現在) ②昭和58年5月1日 ③80名 ④新座市東北2-31-8 ⑤048-471-1751
 埼玉県新座市の花「こぶし」を名前にしたのが新座こぶし連です。

当連は東武東上線志木駅前すきっぷたうん商店会がスポンサーで各地の阿波踊りに出場し新座市の宣伝、友好、親善に多大な成果を上げています。正調

阿波踊りを基本に、男踊りは華麗で力強く、女踊りは優雅さと躍動美を追及したテンポの良い踊りが特徴です。

新座こぶし連

こじやかぶしじれん

にいざの花

みたか連

みたかれん

三鷹駅南口駅前(協)中央通り商店会のみたか連です。

三鷹の阿波踊りも、本年度で二十九回目になります。アメリカ建国二百年祭の行事に高円寺の連と同行させて頂いたのが本格的な連のスタートとなり、二十四年目を迎えます。

連員のふれあいを大切に、「元気良く楽しく」がモットーです。



元気よく楽しむ



にいざの花



みたか連



みたか連



みたか連



みたか連



みたか連



同じ阿呆なら踊らなや損々」を合言葉で見応えのある「とうでん連」を披露したいと思います。

とうでん連

東京電力杉並支社

花の木連

はなのきれん

滝田ゆうデザインの浴衣

新宿の酒場へ花の木の飲み仲間を中心にして集まつた連です。年齢も職業も全く違った人たちが、参加することに意義ありと、漫画家・滝田ゆうの絵入りの浴衣を着て、一年に一度高円寺阿波踊りに集合します。父さんの応援に駆けつけてきた母さんや子供も仲間入りして、見物客にもお馴染みとなり、花の木連はますます元気です。



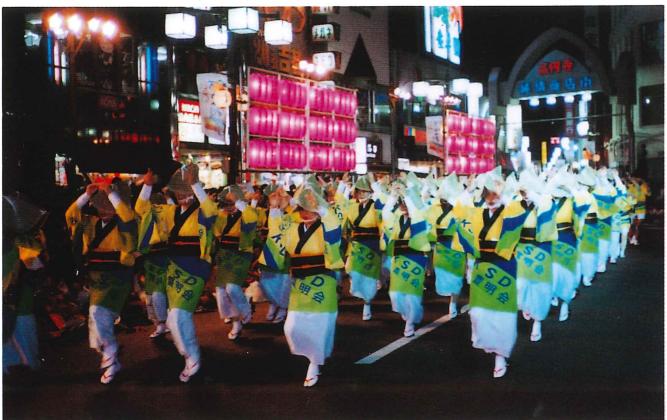
東京ガス連

昨年度の都知事賞

昨年の参加でやっと満十年になります。企業連の宿命で景気の波に弄ばれながら、ここまでたどり着けたかと思うと感慨無量です。これも皆様のご指導・ご支援の賜と深く感謝しております。未だ若葉マークの初心者ですが、諸先輩方の技を吸収し、一人前になるべく努力してまいります。よろしくご指導のほどお願い申上げます。

①伊藤文夫 ②昭和58年5月 ③100名
④新宿区歌舞伎町――10
⑤33335・3121





KSD 豊明会連

KSD まつめいかい
中小企業の味方参上

今年も緑と黄色のひときわ目立つ衣装で参加しますので、皆様のご声援よろしくお願い致します。

①野中泉・大塚尚志・小島基一・大野登利造・小林二三男・谷口博志 ②昭和52年10月 ③100名 ④東京都墨田区両国2-10-8
KSD 豊明会は、中小企業をサポートすべく設立された(財)KSD 中小企業経営者福祉事業団の会員・家族・従業員により組織された親睦団体で、豊かな暮らしと明るい未来づくりをめざしと願っています。

板橋区役所けやき連
いたはくやくじょかくれん

高田寺が目標です

新宿区役所つつじ連
しんじゅくくやくじょじれん

元気で樂しく、美しく
いたはくやくじょかくれん

①関口昭一・上野玲子・谷口春江 ②昭和61年8月 ③60名 ④練馬区光が丘2-9-6 ⑤33996-7980
練馬区聴覚障害者協会と手話サークル練馬こぶし会合同の連。一般の方々へ聴覚障害者に対する理解を広め「共生する社会」をめざして、太鼓の響きを体で感じ、リズムを見て覚え、踊ります。高円寺をはじめ、三鷹・中村橋・神楽坂・福祉関係の施設の夏祭り行事で踊っています。おはやしがきこえたら、だいこん連を見つけて下さい。

今年も緑と黄色のひときわ目立つ衣装で参加しますので、皆様のご声援よろしくお願い致します。

だいこん連
だいこんれん

体で感じる大鼓のリズム
いたはくやくじょかくれん



ひよこ連

ひよこれん
可愛いから踊りは大胆に見てね

①長沼明彦 ②昭和63年5月
③80名 ④杉並区高円寺北3-15-2
⑤3336-6278
手作りの温かい連を目指して、ひよこ連はお祭り好きの親子から生まれました。紺のはっぴに背中のひよこはちまきも全てお母さんの手作りです。小さい子は「右左」がわからないし、列は乱しからうしで、練習はいつもテンヤ

ワンヤ。女踊りやおはやしは父母が援護。今年もかわいいひよこたちにたくさんのお声援をお送り下さい。

青一一才連

あおにさいれん
唯一の学生連

①木村一郎・正木寛隆・中里茂之・染宮克美・芦辺敏文・渡辺建宏・竹内秀一郎・印藤健太郎 ②昭和62年4月 ③60名 ④千葉県浦安市東野2-30-5 ⑤0473-81-7502
手作りの温かい連を目指して、ひよこ連はお祭り好きの親子から生まれました。紺のはっぴに背中のひよこはちまきも全てお母さんの手作りです。小さい子は「右左」がわからないし、列は乱しからうしで、練習はいつもテンヤ

私たちはその名の通り、未熟者の集まりです。しかし常にチャレンジ精神を持ち、昨年の徳島の全国学生阿波踊り選手権において金賞を受賞しました。皆阿波踊りが大好きなので、高円寺唯一の学生連として恥じないよう、これからも成長していくことを思います。

郵便局連

ゆうびんきょくれん
窓のおなじみさん

①高野鹿太郎・野村尚英 ②昭和62年7月1日 ③100名 ④杉並区成田東4-38-14 ⑤331-3-224-1
今年で四十周年を迎える高円寺阿波踊り、「郵便局連」も今回が十年連続の出場となります。「郵便局ファンを増やそう」を合言葉に結成された「郵便連」はこれからも、地域の皆様に愛され親しまれる郵便局を目指して、さわやか

なスマイルで熱演いたしますので、おなじみの顔を見かけましたら、ご声援をよろしくお願いします。

朝日さわやか連

あさひさわやかれん
踊り明かせば眠い目こすり

①高橋健一 ②昭和63年 ③70名 ④高円寺南4-44-8高円寺サニービル5F
我ら町一番の早起き人。夜明けと共に駆け回る。踊り明かせば眠い眼こすり、今日も届けます朝日新聞。早起きだったら負けはせぬ。目標は町一番の踊り手よ。それは無理だと言われれば、踊るあほうに見るあほう。仕事前迄踊り明かす、町一番の踊りのあほう。夜明けまで踊りあかそよ阿波踊り配達前の思い出の日を

だいこん連
だいこんれん

体で感じる大鼓のリズム
いたはくやくじょかくれん





花柳鶴寿賀（柿崎寿賀子）
昭和56年4月 ③75名 ④練馬区貫井4
つくし連は日舞の師匠である花柳鶴寿賀先生を中心とした若い連です。礼儀を重んじるこの連は練習にも緊張感が走りますが、そこは子供、いつも元気満々楽しんでいます。やさしいおは

佐藤栄一 大山博・川口利夫 昭和52年8月 ③50名 ④練馬区中村北3
中村橋連は毎年恒例の「中村橋阿波踊り」が始まつてから二十年に渡り、地元の小中学生及び高校生等で結成されています。男踊りは元気いっぱいに、女踊りはしなやかに、をモットーにしている連です。

佐藤栄一 大山博・川口利夫 昭和52年8月 ③50名 ④練馬区中村北3
中村橋阿波踊りも、昨年二十二回を迎えた。地域と一体となつた阿波踊りをめざして、頑張ります。

希望連

大きな声援待っています

たつのおとし子連

たつのおとしこれん

竜は耳で聞かず角で押す

①浅野輝政 ②1981年7月 ③約150名 ④杉並区阿佐谷南1-15-1区職労氣付 ⑤33-2-3-179(佐藤)

連名由来の「よしこ」の響き、「ぞめき」の中に、今宵は小粋に浮かれ騒いでみませんか？

創立当初は、独自の連を組めないため新若連に連なつて「杉並税務署連」としてスタートし、翌々年には明るく親しみやすい税務署をイメージして「杉並さくら連」と改称しました。現在は、職員の七割もが参加するほど人気あるサークルに発展し、今後も「この社会あなたの税が生きている」のプラカードと共に頑張ります。

ピを着て明るく元気に」をモットーに、今年は十六回目の参加です。応援のかけ声が私たちの元気の素よろしく。

田中隆敏・佐々木義雄・比田井雅博
昭和63年5月1日 ③15名 ④練馬区貫井3-39-25 ⑤3998-1752



騒連中

徳島の名門・江戸

杉並さくら連

すぎなみさくらん

①富森順治(初代)・上羽忠志(現在) 昭和60年8月1日 ③84名 ④杉並区成田東4-15-8 ⑤33-3-1-131

①村田利彦 平成7年1月13日

③30名 ④杉並区高円寺南3-46-9

⑤03-33-5-2760

「品の良い音と踊りに、いなせな色と

薰りの匂ふ。誇り高き、選りすぐりの精

銳達」本場阿波徳島の名門「娯茶平」に、

師事を仰いで二十有余年。地元の祭、阿

波踊りといふ最高の「お楽しみ」を共有

するために、「騒連中」は誕生しました。

なかむらばしれん

中村橋連

ヤングパワー猛烈！

大月夜叉連

①湯山知英 昭和60年 ③80名 ④山梨県大月市大月1-11-10 ⑤0554-231-1988

元のおはやし連や音楽好きの父兄が鳴り物を担当して結成以来八年となりました。当初は先輩の中村橋連の楽器をお借りして練習。踊り子のメンバーは毎年少しずつ入れ替わり、低学年の子供が増えはじめました。素人集団ゆえに指導もままなりませんが、元気なごやかに、をモットーにしています。

なごやか連

なごやかれん
子供だけ負けない

地域の小・中学生を踊り子に、また地元のおはやし連や音楽好きの父兄が鳴り物を担当して結成以来八年となりました。当初は先輩の中村橋連の楽器をお借りして練習。踊り子のメンバーは毎年少しずつ入れ替わり、低学年の子供が増えはじめました。素人集団ゆえに指導もままなりませんが、元気なごやかに、をモットーにしています。

①田中隆敏・佐々木義雄・比田井雅博 昭和63年5月1日 ③15名 ④練馬区貫井3-39-25 ⑤3998-1752

▶平成6年 オーストラリア・シドニー

▼平成6年 オーストラリア・シドニー



▲平成6年 オーストラリア・ウイロビー



▲昭和63年 オーストラリア シドニー



▲平成6年 オーストラリア・シドニー



▲平成6年 オーストラリア・シドニー

▶昭和63年 オーストラリア・シドニー

▼昭和63年 オーストラリア・シドニー



▲昭和62年 オランダ・ユトレヒト



▲昭和62年 オランダ・ユトレヒト



▲昭和62年 オランダ・ユトレヒト



東京
Hajime Obata was all smiles for the Japan Week parade yesterday

For your own sake, enjoy Japan Week



▲平成3年 アメリカ・サンフランシスコ



▲北京・現地の新聞より



▲平成4年 中国・北京

海外遠征 —世界の阿波踊りへ—

▶平成6年 オーストラリア・ウイロビー

▼平成3年 アメリカ・サンフランシスコ

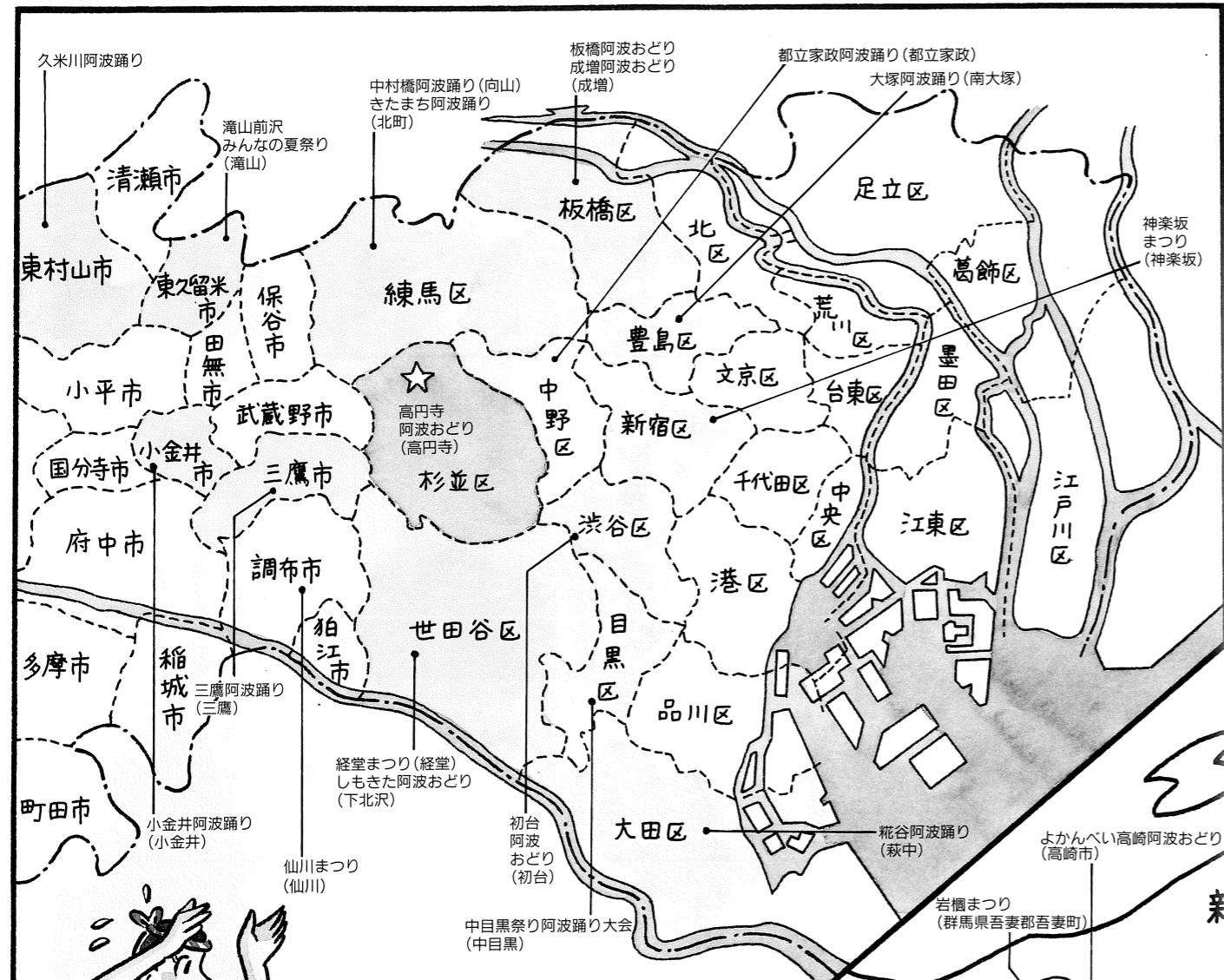


▲平成6年 オーストラリア ウイロビー

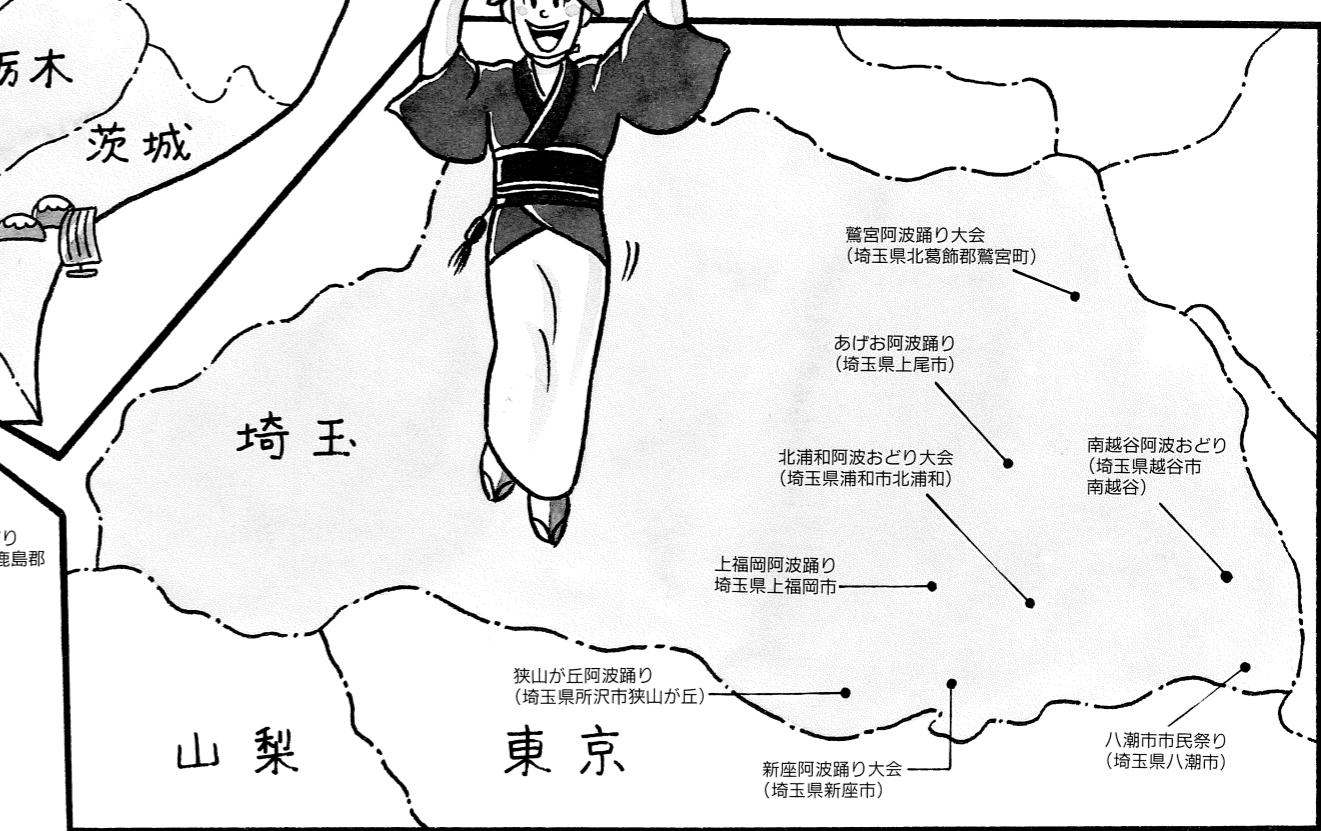
▼平成3年 アメリカ・サンフランシスコ



昭和62年10月●オランダ・ユトレヒト、アムステルダム（ジャパン・ウィーク）/昭和63年7月●オーストラリア・シドニー（建国200年祭ジャパン・ウィーク）
平成3年4月●アメリカ・サンフランシスコ（平和の祭典ジャパン・ウィーク）/平成4年9月●中国・北京（日中友好正常化20周年記念ジャパン・ウィーク）
平成6年5月●オーストラリア・シドニー（東京都友好都市提携10周年）、ウイロビー（杉並区友好都市提携4周年）



東日本阿波おどりMAP





貫く二十三年

●鳥居 利雄さん
高円寺ルック商店会理事長

草創期の昔を振り返りますと踊り子たちは自前の着物、役員はたすき掛けで走り回っていました。昭和四十四年（六年度）「土佐屋連」を結成し、私は連長として出場。当時は私の故郷、四国阿波から衣装や道具を取り寄せて準備しました。祭り期間中のわが家と店舗は踊り子たちの練習や食事、着付け会場と化してごった返し、家族にはずいぶんと苦労をかけたものです。

高円寺ルック阿波踊り実行委員長として務めてきたこの二十三年間は、責任を持って参加者や観客に事故のないよう気を配らねばならぬ、緊張の連続の日々がありました。

いまや日本のどこででも「高円寺阿波踊りの町の出身です」

と言えば感嘆と賞賛の拍手が起き、有名になつたものだなあと感心します。これからも奉仕の精神に立つて阿波踊りを高円寺の風物詩として存続させ、平和と文化の発展に寄与してほしいと念願しております。

浮かれ気分は許されない。緊張しますよ



●中村 重雄さん
杉並消防署警防課 消防係主任・消防司令補

大会期間中、杉並消防署は会場周辺の火災など各種災害の未然防止のため特別警戒態勢に入ります。当時は消防署に百名、会場付近には三十名が警戒に当たり、消火栓など消防水利の確保のため違法駐車の排除をしたり、救急車や防災機動車を待機させます。毎年七月中旬から慎重に計画を練って準備します。

警戒に当たって最も心配する

ことは、この区域に災害が発生

した場合ですね。昨年は運悪く二十七日、二十八日と二日間続けてメイン会場付近で火災が発生し、急遽出動となりました。幸い小火で済みました。火の勢いが強ければ現場はパニックに陥ったことでしょう。百万人以上の人出と車両規制が、消防活動にも影響するからです。

それと、帰宅してからも太鼓の音が頭から離れないのがちょっと困ったことです。（談）

事故発生ゼロめざす

●杉並警察署

杉並警察署は毎年、前夜祭と大会両日を署長指揮のもとに機動隊の応援を得て、警備に当たっています。

毎年、数十件の迷子の保護、泥酔者の取り扱いがありますが、見られることでしょ。警備よりも、道案内のぼうが主な活動なんです。当日は警察官が地元の人ではないほうが多い。地理に暗いから人が道を見ねてもわからない場合がある。そこをフオローしたりします。

今年も事故発生のないよう警備をしたいと考えておりますので、ご協力ををお願いいたします。

裏方に徹して 祭りの進行見守る

●丸山 武さん
高南二丁目町会副会長

私の家は商店街から離れていたし、子供も含めて近くの知人で阿波踊りの連に参加する人が少なかつたので、高円寺阿波踊りにはまったく無感心でした。ところが昭和四十四年頃都市計画で高南通りが十八メートルに拡幅され、ここでも阿波踊りを演舞するようになりました。

私の町会の側にも桟敷が設けられると、町会としてもその対応を迫られることになり、他人ご



とではなくなつてきました。まるで東海道新幹線が岐阜羽島の駅に止まるようになつたのと同じ状態です。

駅ができるとなれば、列車の運行に支障のないよう線路や信号の整備、乗客の改札、入場制限やらプラットホームの清掃もしなければなりません。数少ない役員が総動員で役割を分担し、試行錯誤を重ねながら今日まで協力してきました。

今でも私の町会の役員さんは裏方に徹してほんと阿波踊りを見るところもなく、黙々と自分の持ち場を守っていることを誇りに感ずるとともに、また頭の下がる思いです。

ボランティア精神がなければできません

●清水 光晴さん
立正校成会（交通部）

高円寺阿波踊り実行委員会から立正校成会に警備・交通整理の手伝いを依頼され、毎年延べ

本番前後の十五分、それが勝負どころ

●山田 混さん
トイ・マート店長

中央演舞場の責任者として、二十年くらい前から会場整備を担当しています。当時は午後六時から交通規制が始まるでしょ。そして車が完全にストップするのが六時十五分。踊りは六時半から始まるから、その十五分間

でゴザをさあつと敷くんですよ。観客が後ろに控えていて、私たちが敷き終わるやいなや壮絶な席取り合戦。ケガ人が出ないのが不思議なくらいの勢いでしょ。

踊りの最中は場内の警備、カメラ構えている人はつい仕切りを越えちゃいますから、後に続く観客も出るわけで、それを制御する。自分はわざわざ腰を据えて踊りが見たいなんて思いません。毎年のことですしね。

踊りが終わると、再び十五分

エキセントリック高円寺

●中村 和正さん
杉並地区ボーカリスト野原・行事委員長

杉並地区のボーカリストとして、大会当日のお手伝いをしています。

中高生を中心として二日間で延べ百三十人が、沿道警備や道案内にあたります。私たち大人は本部で彼らの動きを掌握し、采配する役で、実際に動くわけではありません。活動の中心は二人ひと組で沿道の裏側を巡回している子供たちなんです。当日はカーキ色の制服に

若き道案内人たち



●中村 和正さん
杉並地区ボーカリスト野原・行事委員長

杉並地区のボーカリストとして、大会当日のお手伝いをしています。

中高生を中心として二日間で延べ百三十人が、沿道警備や道案内にあたります。私たち大人は本部で彼らの動きを掌握し、采配する役で、実際に動くわけではありません。活動の中心は二人ひと組で沿道の裏側を巡回している子供たちなんです。当日はカーキ色の制服に

本番前後の十五分、それが勝負どころ



●山田 混さん
トイ・マート店長

中央演舞場の責任者として、二十年くらい前から会場整備を担当しています。当時は午後六時から交通規制が始まるでしょ。そして車が完全にストップするのが六時十五分。踊りは六時半から始まるから、その十五分間

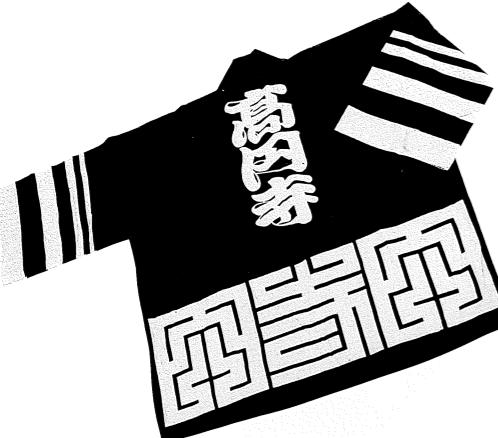
いうすばらしさ、日本の文化の代表ですね。

私はマネージャーの知人が写楽連について、念願の踊り子になりました。思ったより難しく、これからは練習から参加して、ぜひ高円寺でまた踊りたいと思っています。

「踊らにやそんそん」ですね。

町全体で年々盛んになると

フランソワーズ・モレシャン



四十名のボランティアを派遣して協力しています。

警備に当たる人員の平均年齢は五十五～六十歳といったところ。校成会は杉並区にも支部教會があり、普段からそこの交通整理の奉仕に参加している人たちです。我々が奉仕に当たる場合気持ち良くお参りして頂くため、親切丁寧に接する」ということがモットーで、阿波踊りの交通整理に当たつても、それは変わりません。おかげで対人関係の大きなトラブルもなく努めています。

演舞場近くで警備に当たれば踊りを鑑賞できますが、遠い持つてあります。

四十名のボランティアを派遣して協力しています。

警備に当たる人員の平均年齢は五十五～六十歳といったところ。校成会は杉並区にも支部教會があり、普段からそこの交通整理の奉仕に参加している人たちです。我々が奉仕に当たる場合気持ち良くお参りして頂くため、親切丁寧に接する」ということがモットーで、阿波踊りの交通整理に当たつても、それは変わりません。おかげで対人関係の大きなトラブルもなく努めています。

演舞場近くで警備に当たれば踊りを鑑賞できますが、遠い持つてあります。

ち場では見ることができません。それで交代を勧めるんですが、信仰を持つ生真面目な人が多いのでそれすら遠慮するんですね。そうした眞面目さが実行委員会の方からも、信頼を得ている点ではないでしょうか。（談）

今場では見ることができません。それで交代を勧めるんですが、信仰を持つ生真面目な人が多いのでそれすら遠慮するんですね。そうした眞面目さが実行委員会の方からも、信頼を得ている点ではないでしょうか。（談）

今場では見ることができません。それで交代を勧めるんですが、信仰を持つ生真面目な人が多いのでそれすら遠慮するんですね。そうした眞面目さが実行委員会の方からも、信頼を得ている点ではないでしょうか。（談）

今場では見ることができません。それで交代を勧めるんですが、信仰を持つ生真面目な人が多いのでそれすら遠慮するんですね。そうした眞面目さが実行委員会の方からも、信頼を得ている点ではないでしょうか。（談）

今場では見ることができません。それで交代を勧めるんですが、信仰を持つ生真面目な人が多いのでそれすら遠慮するんですね。そうした眞面目さが実行委員会の方からも、信頼を得ている点ではないでしょうか。（談）

今場では見ことができません。それで交代を勧めるんですが、信仰を持つ生真面目な人が多いのでそれすら遠慮するんですね。そうした眞面目さが実行委員会の方からも、信頼を得ている点ではないでしょうか。（談）

た年などは、翌日濡れたゴザも乾かさなきやいけません。大変なことばかりですが、いろんな人と知り合えたことが、良かったことかなあ。（談）



朝十時から始まる会場準備

●吉野 藤三郎さん
南演舞場副責任者

私たちの作業は、午前十時に始まります。演舞場や桟敷席の安全確認から電話線の点検、仮設トイレの清掃を済ませておきます。

夕方六時ごろになると、道路の両側に貼られた「場所取り厳禁」のポスターを確認します。町会青年部の皆さんのがゴザを敷き終わるやいなや始まる、「観客の陣取り合戦」は壮观な眺め。間もなく本番開始です。

南演舞場はカメラマン席や個人賞受賞の会場ともなる場所のせいが、出演連の中では個人演

技を強調する場面が多いよう

す。そうした中で私たちは迷子の世話をしたり、観客同士の小競り合いを仲裁したり、あるいは飛び入り参加希望の相談に応じたりと、またたく間に三時間が過ぎて行くのです。

終了後はただちに後片づけが始まります。桟敷席の照明も消え、保安灯だけになつた会場席の安全確認を済ませ、家路につくのは午後十時過ぎ。

今年も、第四十回目の暑い夏を迎えるとしています。

時連員の流れ感ずる

●黒澤 正さん
アイロード店長

結成二十六年目になる「びっくり連」のおはやしをやっています。この連は北口商店街の所屬で、私は企画担当もしております。練習の日取りを決めたり、反省

会を催したりします。当日飛び入りOKの自由参加連で、ワクにとらわれない楽しさがあります。毎年踊りに来る人、地方から参加する人や外国人、また結婚して子供も連れて家族で踊る人もいます。そんな人を見ていると、時の流れを感じます。五年前から警備の役もしています。熱狂のあまり着物を脱いでしまう踊り手がいて、着せてやったことも。

自由参加連ですから、本当は参加者のため踊る場所や時間の融通をきかせてほしいのですが、それがまだ受け入れていないうが少し残念です。それからさまざまな費用が意外とかかってきますね。

一度のことでしょう。昔は踊りを覚えるのにビデオなんかなかったから、子供心にも忘れちゃいけないと思ってね、夜窓ガラスに姿を映して一生懸命練習したものです。主人も阿波踊りの仲間の中で知り合ったんですよ。

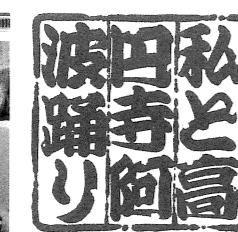
妹夫婦もそう。高円寺阿波踊りは私の青春つてことですよね。だから阿波踊りを取つたら、いつたい何が残るかしら（笑）。

小さい頃から、踊りの練習が始まるとうれしくてワクワクしたものですね。でも本番が終わってしまうと寂しくて。あと一年経たなきや踊れないと思つて切ないというか、虚しいというか、今でも、踊りのない人生なんてとても考えられませんよ。（談）



●小林 香代子さん
写楽連

最初に見た時、徳島とはだいぶ違うけれど地元の意気込みを強く感じました。盛大になつた今は、伝統や本物へのこだわりも大切でしょうね。（談）



阿波踊りは故郷そのもの

最初に見た時、徳島とはだいぶ違うけれど地元の意気込みを強く感じました。盛大になつた今は、伝統や本物へのこだわりも大切でしょうね。（談）

実は我々も、ドラマの石

砂川啓介 大山のぶ代夫妻



●上村 幸子さん
初代いろは連連長夫人

主人が亡くなり、九年が経ました。「先代連長のために」と、毎年大会期間中にいろは連の皆さまが店の前で心をこめて踊つて下さいます。この場を借りまして関係者、連の皆さま方に深く御礼申し上げます。

皆さまが心をひとつにし、一生懸命踊りの練習に励んでいる姿には毎年心打たれます。いじめだの自殺だのといつた暗いニュースを聞くにつけ、「高円寺阿波踊りを仲良く楽しんで、つまらないことは発散させましょう」と呼びかけたくなります。

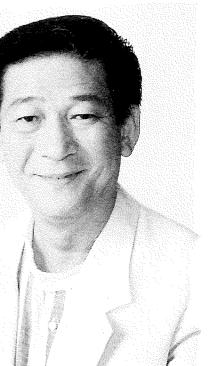
高円寺に住んで二十一年経ちました。楽しいことも苦しいこともあります。四十周年記念おめでとうございます。

地域のひとりひとりが支えてきた祭り

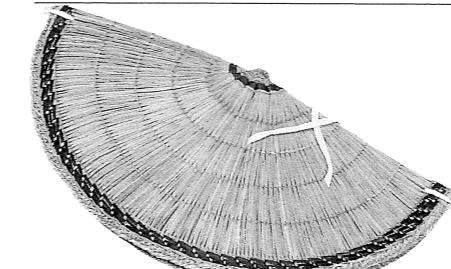
●大石 よねさん
大石書店

我が家家の前は、高円寺ルックから踊つて来る連と、高円寺パルから踊つて来る連がちょうど合流する終点に当たります。踊り手とおはやしと観客とが渾然

六年前のことでしたか、若い俳優さんたちの舞台の演出兼上演を依頼され、その冒頭に阿波踊りを全員で踊ろうとの皆さま方でした。親しくお世話をいただいたのが写楽連の皆さま方でした。親しくおつきあいをいたくまで、その年の高円寺阿波踊りの輪に写楽連の一員として加えてい



写楽連の皆さま方との出会い

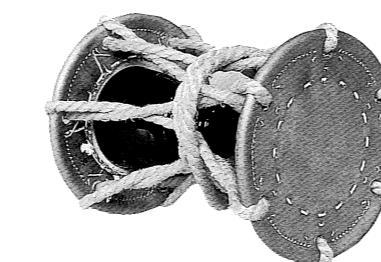


高円寺とは親戚以上のつきあい

●近藤 速雄さん
徳島 平和連

徳島の平和連は、高円寺の天狗連と姉妹連なんです。その天狗連から分派した写楽連総連長の中村さんに招かれて、毎年高円寺でも踊っています。

高円寺の阿波踊りはまだ上り坂でしょ。徳島の四日間を一日



ただきました。本場（と言つては何ですが）徳島で拝見したものの以上の熱氣と情熱と迫力に圧倒され、まさに踊るアホウの一日でした。

五十年、百年と熱い思いの東京の阿波踊りをナガリ目で応援させていただきます。

小松政夫

一体となり、熱狂と興奮の坩堝と化した光景を見る時

十年の歴史の厚みを感じます。

思い返せば、連の運営も厳しかった時代には、役員さんや町内のご婦人方には何かとご無理をお願いしました。襦袢とお腰姿で並んで待つ子供たちの着付けをしてもらったり、下駄の鼻緒ずれを防ぐため足の指の間にガーゼをはさんでやつたり。初日が終了してから、二日目に備えて着物のほころびを繕うのは夜の作業でした。

祭りが終わって、たくさんの方々の物干場にもそれらがずらりと並んでひるがえっていた風景を思い出します。そんな思い出がよみがえるたび、高円寺阿波踊りは、地域社会から家庭のひとりひとりまでもが大切に、温かく支えてきた祭りなのだと感じています。

最高の被写体

●奥田 久子さん

杉並区梅里在住



—と感じます。

阿波踊りにしても、黒潮に乗ってきたとか、沖縄の踊りと通じるものがあるとか、ルーツを考えるのも楽しいです。

高円寺から新しいスタイルが生み出されることを楽しみにしています。(談)



●神山 勇次さん

高円寺南口の鮓店「桃太郎」に勤めて十四年目になります。

初めて阿波踊りを見たときは鳥肌が立つほど感動しましたね。それに仕事中は元気のない後輩が、踊りの連にいる時だけはすごく元気なにも驚いた(笑)。

祭りの二日間はおかげさまで一年で最も繁盛します。午前十一時の開店から混み始めて踊りが始まつても店はいっぱい。

踊りが終わればなおのことでは翌朝までずっと、本当に忙しいんですよ。

この時は、常連さんのほか初めてのお客さんも多く見えます。そういう人がまた常連さんになつてくれるよう、当日は声をはり上げて頑張らなくちゃ。

踊る人にも見る人にも、事故のないよう祈っています。(談)



撮影／奥田久子さん

元気そのものの若者やおじさんの粋な半纏姿。幼い子の、やつと結い上げた髪にねじり鉢巻き、ハッピ姿のなんと可愛らしいこと。編笠の下に化粧した顔をのぞかせる、女踊りの踊り手たちはみな美人に見えます。

あの連が来た、今度はこの連だ、と夢中になつてカメラを構えるうちに体は汗だく。踊る阿呆、とみずから「カメキチ」を自称しています。そして、焼き上がった写真をひとつひとつ見ていくのは無上の喜び。

阿波踊りが終わると、ああ私の今年の夏も終わつてしまつた

賞となりました。私は撮れるかしら?いや撮つてみようと思いつら、いろいろ常にレンズを通しての観阿波踊りはなんていテーマなのだろ。私が撮れるかしら?いや撮つてみようと思いつら、

元気そのものの若者やおじさんの粋な半纏姿。幼い子の、やつと結い上げた髪にねじり鉢巻き、ハッピ姿のなんと可愛らしいこと。編笠の下に化粧した顔をのぞかせる、女踊りの踊り手たちはみな美人に見えます。

昭和五十三年ごろだったか、

「踊れ高円寺」という新聞を一

年一度

大会の直前に発行していました。

各連を紹介したり、阿波踊りの草創期に活動した方々に話を伺つて、年表をまとめたり。当

年の草創期に活動した方々に話を記録したもののが少なかつたのです。

これから阿波踊りに期待することは、たとえばニューオリ

ンズで生まれたジャズがシカゴ、

ニューヨーク、西海岸を経て世

界のジャズとなつたように、阿

波踊りが徳島から高円寺経由で

日本の各地へ広がつてゆくとき、

どんな新しい展開を見せてくれ

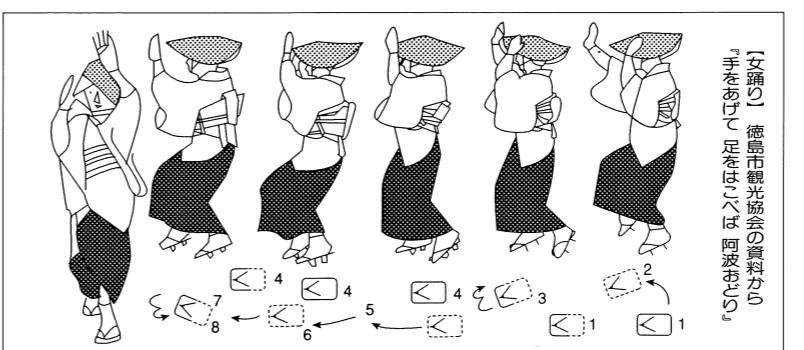
ます。

まだ高円寺阿波踊りの歴史

を記録したもののが少なかつたのです。

これまで高円寺阿波踊りの歴史

を記録したもののが少なかつたのです。



〔文踊り〕徳島市観光協会の資料から
手をあげて足をはげば阿波おどり

クリーニング
杉原スペンサーショップ
(年中無休)

高円寺北口駅前
3337・5445

たちばなや

高円寺北3-3330-0872

竹岡書店

純情商店街
5373-0843

生鮮デスカウント

高円寺北3-3330-0872

浜あそ

古書高価買入
3337-1745

とん実

高円寺北2-8-13
上村幸子
3337-6135

株式会社 高野青果

高円寺駅前銀座通り
3337-4604

COFFEE SHOP

高円寺北2-7-11
3339-0696

桃太郎

純情商店街
3337-0843

藤田電気商会

杉並区高円寺北2-2-18
3330-4451

高円寺銀座商店会協同組合

高円寺純情商店街

〒166 杉並区高円寺北2丁目7番13号
TEL 3337-7532 FAX 3337-2000

金子園

お茶とのり
高円寺北口駅前
3330-0361

大小ご宴会、ご商談、パーティー
お家族連れに
中国飯店 美華

高円寺北口銀座通り
3337-5116

MONTBLANC
モンブラン

杉並区高円寺北2-21-6
3337-4205

婦人服

高円寺北口銀座通り
3337-2901

京呉服と踊り用品

むさしや

高円寺北口駅前
3337-6069

トケイ・宝石・メガネ

吉甚商店

高円寺北口駅前
3337-4065

薬・処方せん調剤

ミカド薬局

高円寺北口駅前
3338-0817

クリーニング

杉原スペンサーショップ

(年中無休)

高円寺北口駅前
3337-5445

和風とんかつ

桃太郎

高円寺北2-1-8-13
上村幸子
3337-6135

高野青果

高円寺駅前銀座通り
3337-7034

株式会社 高野青果

高円寺北2-7-6
3337-4604

浜あそ

古書高価買入
3337-1745

竹岡書店

高円寺北2-8-13
上村幸子
3337-6135

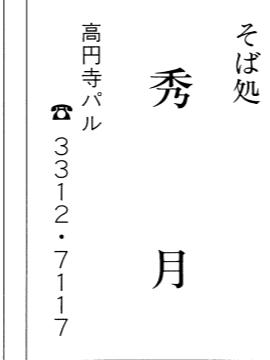
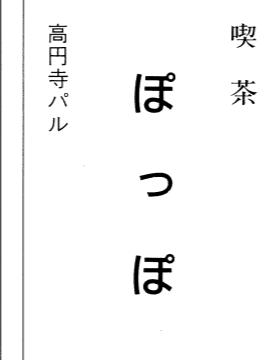
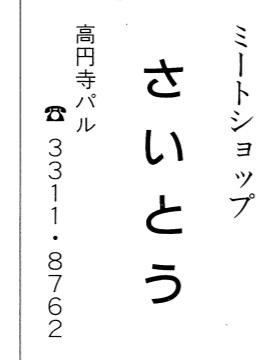
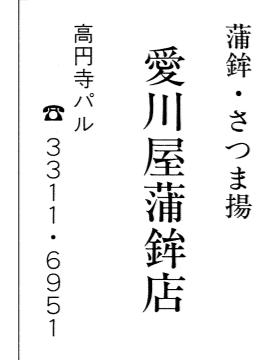
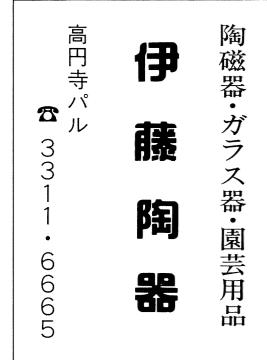
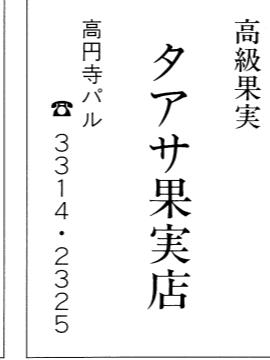
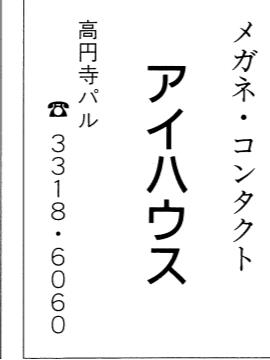
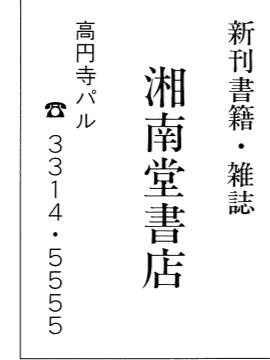
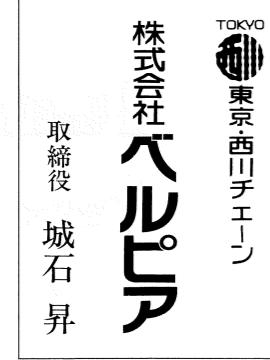
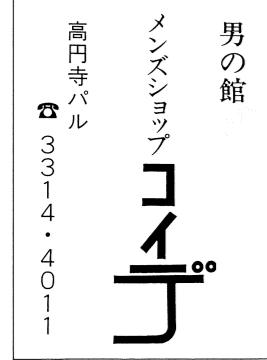
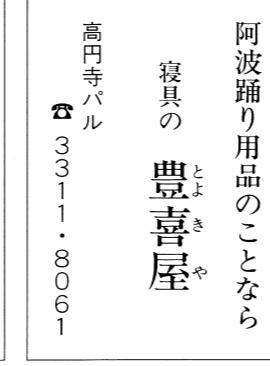
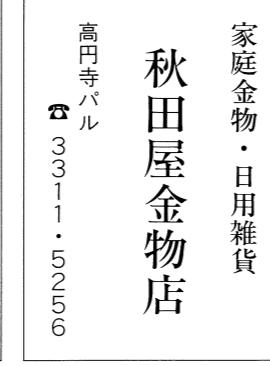
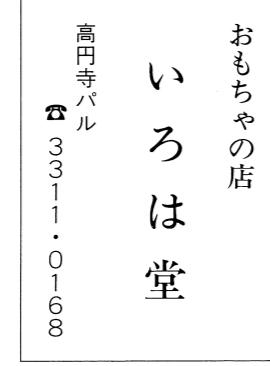
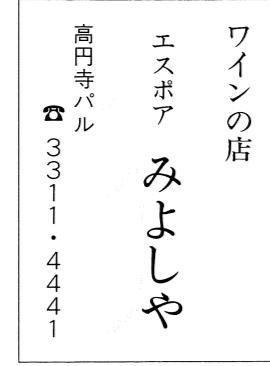
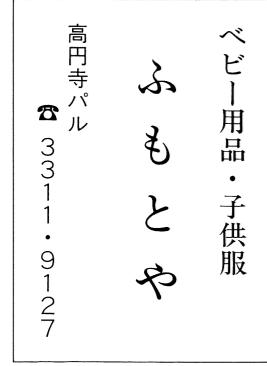
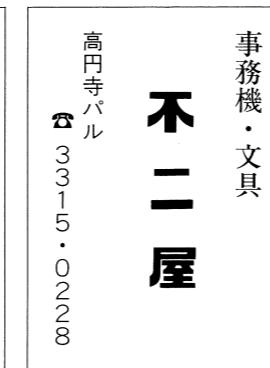
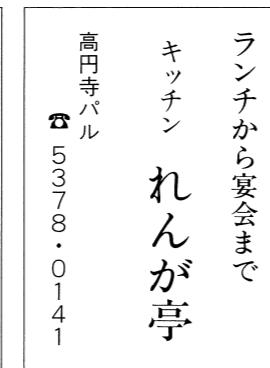
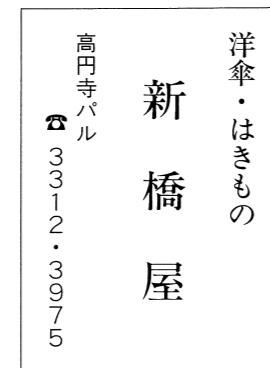
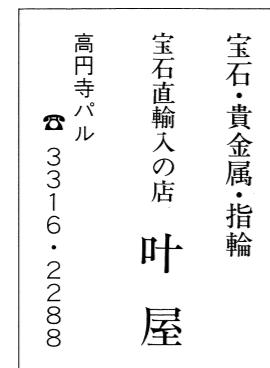
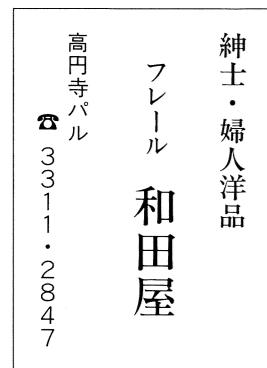
桃太郎

純情商店街
3337-0843

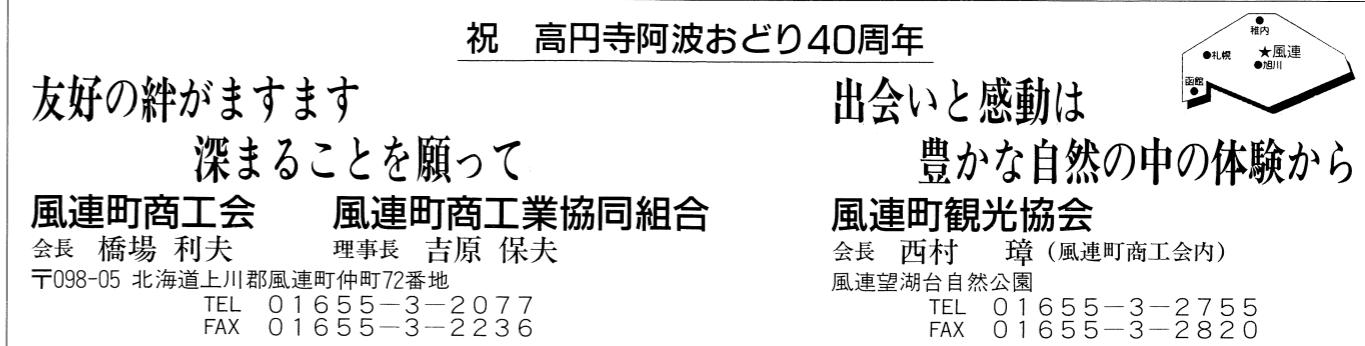
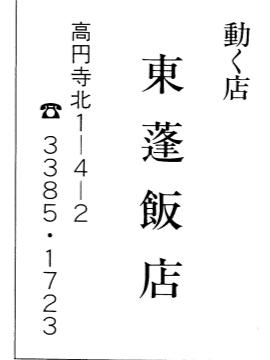
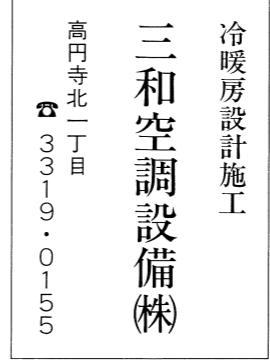
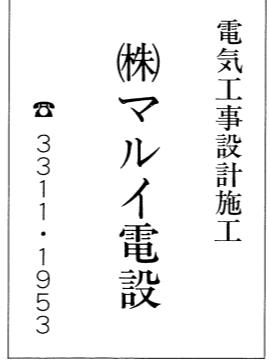
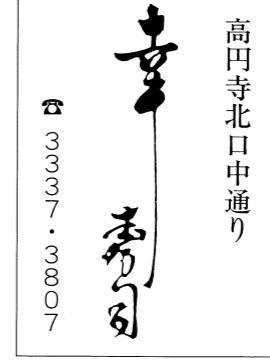
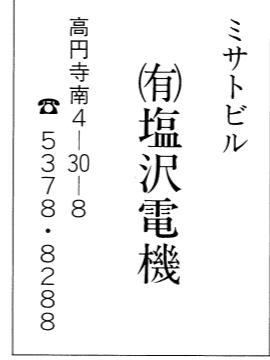
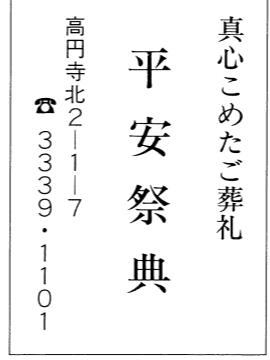
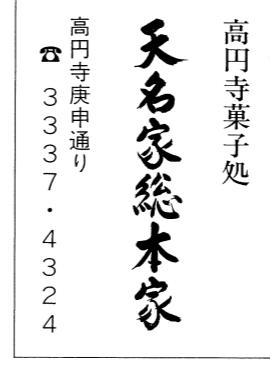
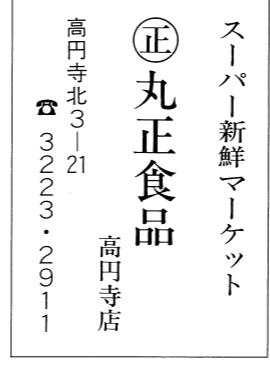
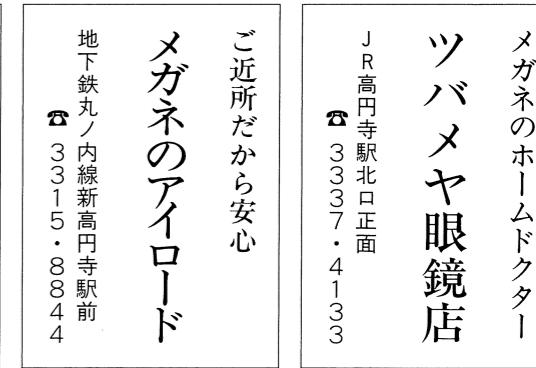
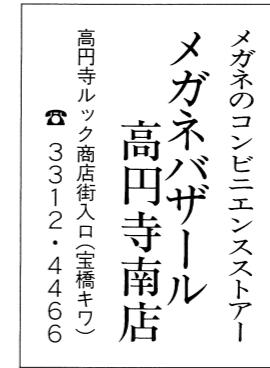
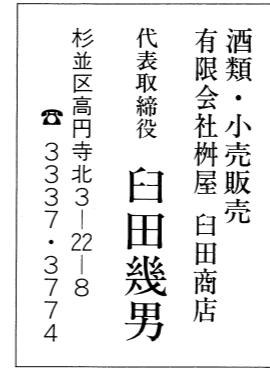
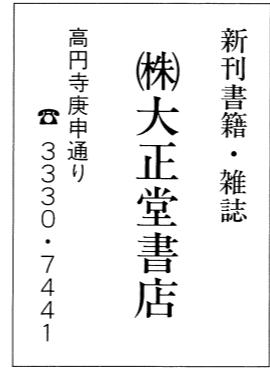
藤田電気商会

杉並区高円寺北2-2-18
3330-4451

祝 40周年



祝 40周年



ともだち集まるアーケード

★★★★★たのしさいっぱい！80店



事務局 03-3311-7033

味を楽しむ店

味 樂

高円寺南商店会
四丁目信号角

3311・8725

天ぷら・磯料理

◆ 魚 藤

杉並区高円寺南4-7-5
3314・4684

お米のご用命は

下田米穀株式会社

高南商店会
3314・2555

居食屋 駿河

御会合に御利用下さい。

創業六十五年

都内有名店 創業37年 錠と鍵やぐら	高円寺南4—42—6 3312・3111	谷口寿雄
誠実サービス本位	高円寺南	中央通り商店会
会長 田村莊輔	高円寺南中央町会	高円寺南4—11—1 3311・38828
佐山製作所 応接セット・内装一式	佐山道治	高円寺南口中央商店街 3311・48888
日本石油(株)特約店	日新商事株式会社	高円寺南4—13—1 3314・0263

A collage of various restaurant signs and advertisements from the 1960s. The signs include:

- 高円寺パル (Kōenji Pal) - 3311・8396
- メガネのサワノ (Megane no Sawano)
- 漬物・惣菜 (Sashimi and Zoni)
- とみざわ (Tomizawa)
- 高円寺パル (Kōenji Pal) - 3311・8395
- 高円寺パル (Kōenji Pal) - 3311・8392
- 中華三福 (Chinese Sanpo)
- 江戸前・大阪寿し (Edobori・Osaka Sushi)
- 大黒鮨 (Dai-ku Sushi)
- 書籍・雑誌 (Books and Magazines)
- 邦文堂書店 (Kōmon-dō Bookstore)

The image shows a horizontal strip containing five business cards from the 'Kodomo no Machi' directory. From left to right, the cards are:

- 高円寺パル**
3314・5600
キクヤ ゴローズ
- MENS'S**
- 写真の店**
高円寺パル
3314・6317
- 東郷堂カメラ**
電気製品・家庭用品・卸・小売
アイデアル産業
- ジーンズ Shop NAKAYA**
高円寺パル
3311・4484

The image shows five business cards arranged horizontally. From left to right:

- 高円寺パル**
333-118・7756
やきとり
串兵衛
- アロエベラジュース**
高円寺パル
333-144-4620
ミミズク
- 大黒屋**
たしかな美しさを創る
きもの工芸
田中忠
- うなぎ**
高円寺パル
333-114427
うなぎ
- 桃園川宝橋際**
3311-4570森田昇栄
たかはし

祝 40周年

祝 40周年

そば処
ますだや
高円寺南2-20-21
新高円寺駅隣
3311-8129

東交観光バス(株)
大型バスから小型バス
高円寺南3-4-21
3313-7115

グリーンヒル・フクダ
フラワーショップ
新高円寺ツインビル一階
3313-5014

世界のフルーツと生ジュース
ジエラードアイスの店
フルーツ とみざわ
新高円寺駅前店
梅里1-17-77インビル一階
3314-8884

セブンイレブン
新高円寺駅前店
まちのお花畠
セブンイレブン
高円寺南2-17-12
FAX 3314-2220
代表取締役 林 直清
新高円寺駅前
3317-7091代

浅賀建設資材(株)
注文建築・企画・設計・施工
大幸ホーム株式会社
代表取締役 林 直清
新高円寺駅前
3314-5061

相原クリーニング
クリーニング
まちの郵便局
ルック商店街入口
高円寺南5-14-7
3311-6547

高円寺南三郵便局
高円寺南5-9-13
3311-3838

教室長 平松楠枝
長沼静きもの学院
杉並着付教室
高円寺南5-18-12
3316-3271

福島畳店
畳一式
高円寺南2-20-7
3314-1476

印刷全般
和田印刷
高円寺南5-18-12
3316-3271

(株)イノウエインダストリーズ
特注家具製作
FAX 3315-3908

ラーメンと定食
ことぶき
杉並区高円寺南2-18-10
3312-5365

注文建築・企画・設計・施工
大幸ホーム株式会社
代表取締役 林 直清
新高円寺駅前
3314-5061

総合不動産業
大幸住宅株式会社
代表取締役 林 直清
新高円寺駅前
3314-5061

浅賀建設資材(株)
生コン及び骨材
高円寺南2-17-12
FAX 3312-7420
琴・三絃
丸山高文堂
事務用品・教科書
高円寺南2-17-9
3311-7010

高円寺南2-21-8
FAX 3311-4859
有 杉 山 工 芸
古書誠実売買
高円寺ルック中央
高円寺南3-45-18
3311-6646

高円寺南2-21-8
FAX 3312-7420
大石書店
工芸陶器の店 幸 玉
古書誠実売買
高円寺ルック中央
高円寺南3-22-12
3311-9563

高円寺南2-20-11
FAX 3312-2033
ふとんの吉野屋
貸 丸洗いたばこ宅急便
高円寺南3-45-19
3311-3613

洋傘と Living Goods
ナカデ
さかい屋
(3312)7000

東京舎
クリーニング
高円寺南2-23-3
3311-6545

建築金物一式
(有)仲澤金物店
高円寺南2-49-14
3311-3931

酒とタバコの御用は
小松酒店
高円寺南2-24-16
3311-1940

紅屋楽器店
琴・三絃
丸山高文堂
事務用品・教科書
高円寺南2-51-9
3311-7010

トロフィー・カップの専門店
桜井工芸
高円寺南2-21-3
3337-5027

最新機器・最高技術・地元出身
根津歯科医院
高円寺北2-18-7
千恵ビル二〇二
3223-5664

不動産の売買・仲介・賃貸
低金利時代の資産運用、第三
の年金プランニング致します
(株)日本旅行研究所不動産部
〒166 杉並区高円寺南2-22-8
(03)3311-4719代 (ルック商店街)
FAX 3311-4725
土地・建物・電話・買取り致します

ふとんの吉野屋
貸 丸洗いたばこ宅急便
高円寺南2-20-11
3312-2033

洋傘と Living Goods
ナカデ
さかい屋
(3312)7000

水中スポーツトレーニング
「イベントに阿波おどり」
(株)スポーツネットワーク
千代田区麹町5-7 TBRビル
5275-5807

外救急病院
外科・皮膚科・泌尿器科
北條病院
高円寺南3-43-11
3318-1151

最新機器・最高技術・地元出身
根津歯科医院
高円寺北2-18-7
千恵ビル二〇二
3223-5664

トロフィー・カップの専門店
桜井工芸
高円寺南2-21-3
3337-5027

ヤング 塚田 富子
一般記念・アルバム・シャベル写真
カメラ 塚田 富子
一般記念・アルバム・シャベル写真
高円寺南2-21-3
3337-5027

東京セレモニーサービス
(株)クaineズ伊勢丹
スープーマーケット
高円寺南2-21-10
3318-9900

ユーフォート
スタジオ写真オーブン
(有)須藤葬祭
梅里1-7-7
3318-9900

阿波踊用品取扱い店
(株)扇屋呉服店
高円寺南2-20-17
3316-5298

ドリップ珈琲の店
ジェズカフェ
高円寺南3-21-16
TEL. 3315-4159

本当に健康によい靴を
はいてみませんか
ドイツの
健康靴を扱う店
Sport + Schuh
オートフィット
三鷹市下連雀3-28-20
中央ビル内
TEL. 0422-47-8891
当店のパンフレットお送りします

三鷹日光せともの店
食器のデパート
コーディネイト・ファッショ
various
三鷹南口駅前通り
0422-43-9545

協同組合三鷹中央通り商店会
三鷹駅前銀座商店会
会長 岡崎伊三郎
理事長 島野 清
三鷹阿波踊り振興会
会長 佐藤徳三郎
清

Jbツアスタンプでかしこいお買物

新高円寺通商店街振興組合

杉並区高円寺南3-36-15 電話 3315-0039

祝 40周年



小澤淳男

大会役員インタビュー

東京阿波踊り振興協会会長

高円寺阿波踊り実行委員会委員長

私は、家族から「お祭りとっちゃん」と呼ばれてるんですよ。高円寺阿波踊りのためにこうして何か月も前から飛び回つて準備するでしょう。それがもう四十年も続いているんですからねえ。でもそのあだ名に込められているのは「良く飽きもせずに」という気持ちを茶化したものだと思ってるんですよ。ただの祭り好きの浮かれ者じゃ、何年も裏方の継続はできません。そういうお祭りとっちゃんが大勢いるんですよ。それでも、初めてのころはこの行事がこれほど大きくなるとは想像もしなかった。こうして世の中に受け入れられたことは、私個人としても非常にうれしいことです。わが青春に悔いなし、ですね。

ここまで盛大になった理由は、まず阿波踊りの早いリズムが現代の若者にもすんなり受け入れられた点がひとつ。それからひとりの技より、全体としての踊りが映えてるかどうかが問われる世界なんです。各連は礼儀を重んじ、組織的にまとめて子供も若者もルールを厳しくしつけられる。そうした上で、それぞれの連が一丸となつて切磋琢磨しつつ、技量の向上を図つていきます。だから、いわゆる「青少年の健全な育成」にも大きく寄与しているということが、徐々に地域の人々にも理解されてきたんですね。

高円寺阿波踊りには今後の課題もあります。参加者が増えて会場が手狭になつてきてる点をどうするか。実行委員会の今後後の後継者拡大、社団法人化の動きなどもあるし、行政の面では杉並区と徳島市の友好を実現させたい。これらは高円寺に住むたくさんの「お祭りとっちゃん」の肩にかかるつたんです。阿波踊りを五十年、百年へと確実につなげるためには。

「他の連に負けるな」と競つて踊りをみかく。
協調性が生まれ、研究心が育つ。
知らず知らず、社会のルールが身につくんです。

武藏野信用金庫 高円寺支店 北口純情商店街 3337・1151～5番	東京三菱銀行 高円寺支店 〒166 杉並区高円寺北二丁目七番四号 TEL 東京(3337)1101(代表)
--	--

大東京信用組合 高円寺支店 コンビニエントな よる7時までの サービス	さくら銀行 高円寺支店 共に生き、共に喜ぶ	八千代銀行 高円寺支店 共に生き、共に喜ぶ	熱海市観光協会 会長 菊間 一光 JRT 四国旅送 ラジオモテレビも
--	------------------------------------	------------------------------------	--

徳島市觀光協会 社徳島市觀光協会 伝統ある本場阿波おどり	島原不知火連 島原商工会議所青年部 大和阿波踊り振興協会
---	---

株式会社 アスク 山形市 山形のおいしいお米 産地直送	新宿野村ビル五十階 ホテルオークラ スカイレスストラン トップハット(西欧料理) 桃里(中国料理) 近畿日本ツーリスト ホリデイ・メイトの
---	--

忠岡 株式会社 祝 高円寺阿波おどり40周年 製造販売 おか



おざわ あつお 一九三三年、東京高円寺生まれ。高円寺阿波踊りの総責任者であると同時に、全国一万二千軒余の書店を率いる日本書店商業組合連合会の会長、東京都書店商業組合の理事長を務める。高円寺南口バル商店街「湘南堂」社長。



▲第33回（撮影／岩田優）



▲第39回



▲第36回（撮影／福井豊）



▲第34回（撮影／深堀昭二）



▲第33回



第34回（撮影／中島半治）



▲第32回（撮影／塩月基生）



▲第39回



▲第35回（撮影／前田フサ子）





▲第39回（撮影／田邊徹衛）



▲第37回前夜祭



▲第39回（撮影／福岡信吉）



▲第32回（撮影／神藤弓子）



▲第32回（撮影／神藤弓子）



▲第37回前夜祭



▲第36回



▲第39回（撮影／福角久子）



東京阿波踊り
実施中
車両は通行
できません

杉並警察署

警視庁自慢のオーロラヴィジョン
カー登場。交通案内に威力を発揮

▲第36回



●第31回～昭和62年～第40回／平成8年 大会ポスターと電車内中吊り広告





NTT

キャッチホンII

キャッチホンに録音機能がついてさらに安心

キャッチホンがさらに便利になって新登場！大事な電話中に、後からかかってきた電話を録音し、メッセージをお知らせ。

こんな時、こんな方に便利なキャッチホンII

A1 切り替えられない
大事な電話の時に。



A2



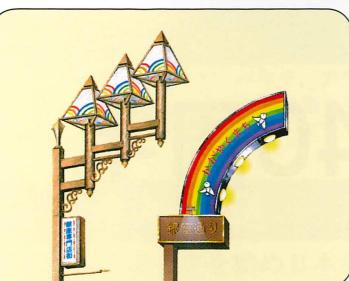
A3



NTTは
みなさまとのふれあいを
大切にします。

- 本サービスについて、詳しくはNTTへお問い合わせください。
- 本サービスのお申し込み・お問い合わせ●
局番なしで「16番」または、お近くのNTT支店・営業所の窓口へどうぞ。
116番 午前9時～午後5時(月曜～金曜)(土曜・日曜・祝日は、休館)
営業窓口 午前9時～午後4時(月曜～金曜)とさせていただきます。

NTT新宿支店



明るい街創りのアドバイザー

アーチ・装飾街路灯

◆企画設計・施工・アフターの一貫体制◆



昭和電業株式会社

〒185 東京都国分寺市光町1-34-1 TEL (0425) 75-5000㈹ FAX (0425) 75-5400

“祝 東京阿波踊り40周年” 高円寺の街とともに40年



ニューアド社は東京阿波踊りを始め、地元の皆様の身近な広告のお手伝いを致します。

交通広告・新聞折込・サイン&ディスプレイ



株式会社 ニューアド社

〒166 杉並区阿佐谷南1-11-1
TEL 3314-1321(代)
FAX 3312-7158



企画→設営→進行まで
より効果的に会場を演出いたします

地鎮祭・上棟式
竣工式・披露宴
祝賀会・パーティ
運動会・展示会
各種祭り行事

F 株式会社 装飾 フジシマ

〒166 東京都杉並区高円寺南3-27-9
TEL(03)3311-6540 FAX(03)3312-6781



平成7年度 東京阿波踊り振興協会役員

【名誉会長】草柳勝治

【会長】小澤淳男

【筆頭副会長】塚本忠吉

【副会長】斎藤信雄/田村莊輔/鳥居利雄/渡辺容事/井上文雄/内田和喜知/三上二葉/野口久夫/松田長門/斎木喜久夫/谷幹男/杉原英男/福島啓二

【常任理事】城石昇/佐藤恒夫/山岸正/小畠肇/小林忠三/南部明男/大石功/西川道雄/幡野宏幸/中村和男/杉谷宗彦

【会計】河原一/岡本守弘

【会計監査】戸塚保雄/井藤茂

第39回高円寺阿波踊り実行委員会

【実行委員長】小澤淳男

【副実行委員長】塚本忠吉/城石昇/佐藤恒夫

【総務部】杉原英男/鳥居利雄/渡辺容事/小林忠三/林紀元/河原一/(朝日会) 豊田/野口憲一

【宣伝部】鈴木俊男/大石功

テレホンカード 西川道雄/伊藤由雄/二宮章

ポスター 森田昇栄/大久保貢祐/富沢武幸/真島由佳

記録 大須賀丈夫

写真コンテスト 小林忠三/吉沢勇夫

【装飾兼スポンサー担当】谷幹男/清水高男/小林義明/中村英次/小出正臣/温井征吉/浅賀恒一/久保田潤一

【運行部】杉谷宗彦/福島啓二/河原一/富沢武幸/小泉親史/斎木

喜久夫/中出勇/岩浪則彦
【警備部】鹿野俊一/太田護/井筒庸三/高橋礼司/鈴木庸歲/森川周一郎/堤欣也/大須賀丈夫/臼田幾男/小針正雄/渡辺泰幸/吉田弘/高山康雄/野中勝/渡辺孝司/城石豊/武田周吾/吉田忠司/西川正雄/佐野紀雄/寺久保英一/金山高廣/大久保貢祐/大沢健二/碓井貴一

【設営部】西川道雄/林紀元/鈴木俊男/中村吾郎/澤野良治/足立勇/山崎吉太郎/木下昭一/佐々木昌彦/小沢文雄/丸山武/森田侑義/柴山由子/中村つね子/内藤正夫/山田滉/野口久夫/田中健五/森川周一郎/奥田敬三/藤崎明/林茂/野口憲一/藤森雄司/幡野宏幸/吉野藤三郎/小林義明/名取芳雄/沢井久吾/藤森正康

【給付部】岡本守弘/伊藤勝正/河原一/浅見芳造/田島昭/大吉一

【環境部】小畠肇/中村和男/沢崎孝子/吉野藤三郎/名取芳雄

【演舞場担当】

純情演舞場 杉原英男/根津敬司
東演舞場 内田和喜知/草柳忠弘
中央演舞場 斎藤信男/渡辺容事/田村莊輔/斎木喜久夫

桃園演舞場 林茂/井上文雄
三上二葉

南演舞場 野口久夫/吉野藤三郎
塩野久男

【事務局】松田長門/岡美代子

めくるめく発展の四十年

おどれ高円寺

高円寺阿波踊り四十周年記念誌

平成8年8月1日

発行 東京阿波踊り振興協会

〒166 東京都杉並区高円寺南3-57-10 パル商店会内
☎03(3312)2728

制作 株式会社 みづほ

印刷 〒114 東京都北区豊島1-22-9 ☎03(5390)7811(代表)

